



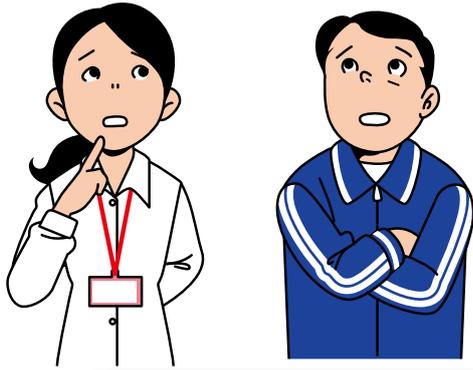
ほらっちゃん

# 福祉教育 実践ガイド



福祉の心  
ふっころ  
長野県社会福祉協議会  
公式キャラクター

社会福祉法人  
長野県社会福祉協議会



# 教えて！原田先生

## 福祉教育について 一緒に考えました

平成29年5月に「福祉教育推進フォーラム」が開催され、基調講演では、日本福祉大学の原田正樹氏を講師に招き、「地域全体で進める福祉教育と社協の役割」をテーマに、地域福祉の政策、教育行政の動向から、福祉教育の大切さと社協の役割についてお話しいただきました。

また、学校と社協の連携による信州型コミュニティスクールの実践例を、伊那市立長谷中学校校長の高木幸伸氏と伊那市社会福祉協議会の石川裕美氏から報告していただきました。

本誌2P～17Pでは、福祉教育推進フォーラムでの講演・議論をもとに構成しています。福祉教育の実践ヒントとして、本書を活用してください。

## もくじ

### 教えて！原田先生 一問一答 Q&A 福祉教育についての素朴な疑問に答えます

3 **Q.1** 何のために、どうして  
福祉教育が必要なの？

学校の先生にも知ってほしい 地域福祉の政策動向  
「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現

6 **Q.2** 福祉教育で何が変わるの？

**Q.3** 質のいい福祉教育を行うには？

7 **Q.4** 学校と社協とのおつきあいは  
どうすればいいですか？

8 **Q.5** コミュニティスクールにおける  
福祉教育とは？

社協職員にも知ってほしい  
「コミュニティスクール」

9 **Q.6** 教育福祉とは？

16 **Q.7** 高齢者疑似体験の  
落とし穴とは？

**Q.8** ICF の大事な視点とは  
何ですか？



10

#### 実践例

### コミュニティスクール

ここは地域みんなの学校 駒ヶ根市立中沢小学校  
学校を「まちの縁側」に 伊那市立長谷中学校  
長谷の縁側 長谷学区コミュニティスクールの事例から

18

#### 実践例

### 障がいのある方との交流

「ちがいとおなじ」

20

#### 事例紹介

### 県内各校の活動より

# 一問一答 Q & A

福祉教育についての  
素朴な疑問に答えます



原田 正樹 氏

日本福祉大学学長補佐

日本福祉教育・ボランティア学習学会会長

\*プロフィール

長野県出身。社会福祉学博士・社会福祉士。日本地域福祉学会会長。全国社会福祉協議会ボランティア・市民活動振興センター運営委員、厚労省・地域共生社会地域力強化検討会座長などを務める。

茅野市、氷見市、伊賀市、半田市など全国各地の地域福祉実践にかかわる。著書多数。

## Q.1 何のために、どうして福祉教育が必要なの？

## A. ふだんのくらしのしあわせを地域で実現するためです

「福祉って何だと思いますか？」と、小学5、6年生に聞くと、障害者や高齢者のことと捉えている子がとても多くいます。一言でいえば、社会的な弱者をイメージします。

福祉というのは、他人事になりがちです。「私は障害がなくてよかった。あの人たちは特別な人たちなんだ」と、関係性を断ち切ってしまったら、そこで終わってしまいます。そうではなく、福祉を自分のこととして考えてほしい。そんな思いから「ふくし=ふだんのくらしのしあわせ」というフレーズができました。

「福祉は障害者・高齢者・困った人のためのもので、できれば福祉に関わりたくない。福祉なんて自分には関係ない」と思っている人たちに、人が生きていくプロセスの中で、「ふだんのくらしのしあわせ」をみんなで作っていく

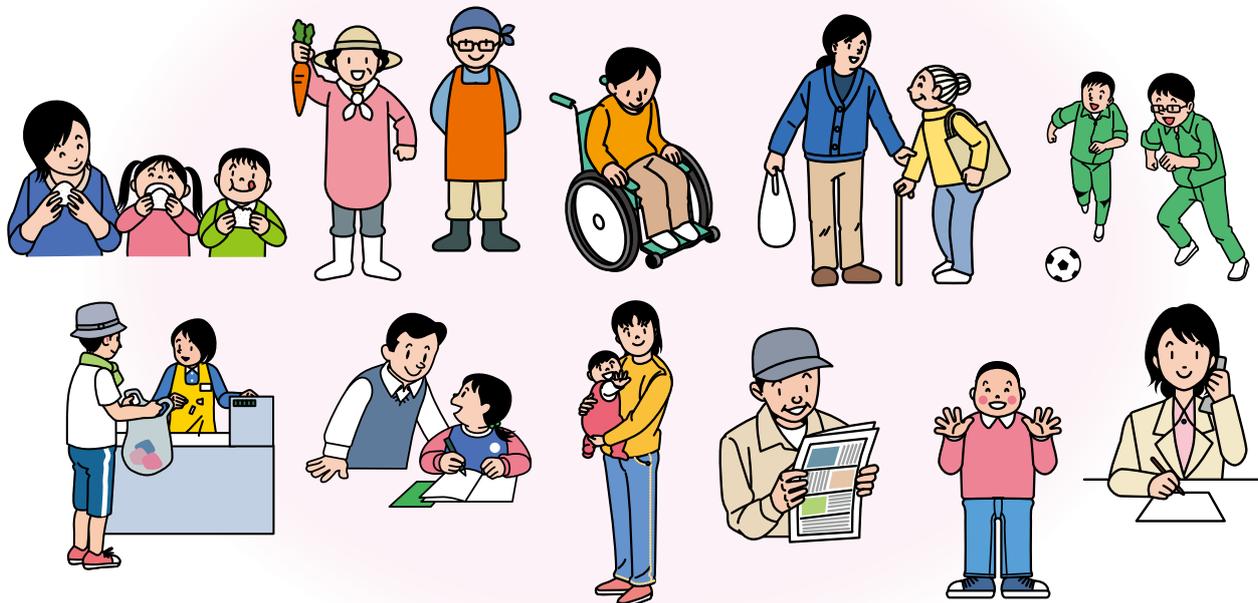
くことがこれからの福祉ということをしかりと伝えていくことが必要です。

「ふだんのくらしのしあわせ」の主人公は「私自身」です。いろんな人と関わりながら、助けてもらったり、助けたりしながら生きていく。福祉は特別な人のものではなく、「私自身」にとっても大切なことなんだということを伝えることが重要です。これが福祉教育の根っこ(土台)となります。

「ふだんのくらしのしあわせ」をどのように地域で実現していけばいいのかを、他人のための福祉(他人事)ではなく、自分たちのための福祉(自分事)として住民全体で考えていく。住民主体で考えていく。そのための「福祉観」をつくっていくのが、福祉教育なんです。

### ふくし(福祉)は

### ふだんのくらしのしあわせ





# 福祉教育は地域福祉の土台です

「ふだんのくらしのしあわせ」を  
他人事ではなく自分事にする

- ◎子どもたちや保護者への働きかけ
- ◎地域の人を学校に受け入れる場づくり
- ◎学校から地域に出て行く場づくり
- ◎教職員の研修の場づくり

学校・教育機関

- ◎発展的で多様な教育プログラムの企画
- ◎コーディネート（つなぎ役）
- ◎広報活動・情報発信
- ◎福祉教育サポーター等の育成

- ◎地域の資源（ひと・もの）の提供
- ◎学校行事への協力
- ◎地域住民の地域活動の参画推進
- ◎学校の取り組みを受け入れる意識づくり

地域  
自治体・企業  
NPO・市民

学校・教育機関、地域、  
社協がつながる  
福祉教育

市町村  
社会福祉協議会

地域の一員としての  
意識を育む

ふるさとの  
役に立ちたい!



〇〇さんみたい  
になりたい

すごいんだな、  
ぼくの町



学校の先生にも  
知ってほしい

## 地域福祉の政策動向

# 「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現

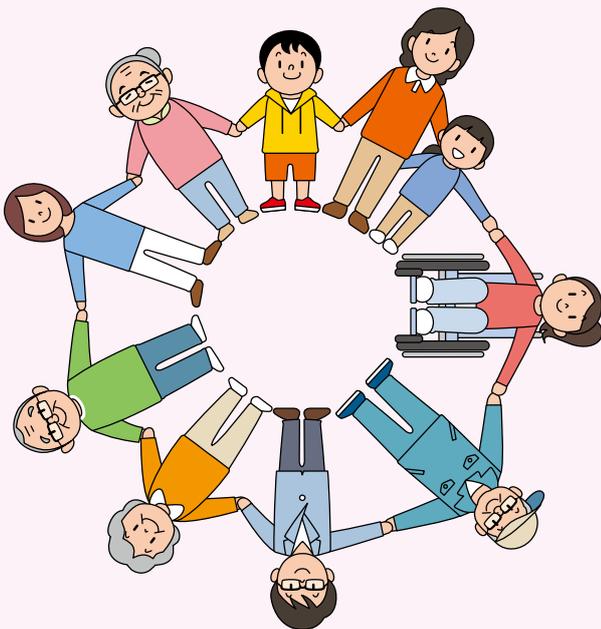
### 排除のない地域づくりの創造

少子高齢・人口減少社会が進展し、40年後我が国の人口は8000万人になると推計されています。社会保障の改革が必要です。そこで、厚生労働省は、「我が事・丸ごと」をキャッチフレーズにした「地域共生社会」の実現に向けて動き始めました。

「地域共生社会」とは、子供・高齢者・障害者など全ての人が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる社会です。

その解決のためには、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みが必要とされています。

生活困難な人の問題を地域住民が「他人事」とせず「我が事」と捉え、また支援制度のあり方は、「縦割り制度」ではなく、地域住民が相互に支え合い、行政による公的責任も含めた包括的支援体制をつくる「丸ごと」の視点を強調し、「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現を提起しています。



## 「福祉観」という価値をつくるのが福祉教育

地域というのは、2つの顔を持っていると言われていま

す。1つは、どんな相手も受け入れてくれる優しい顔。もう1つは、排除したり抑圧したり、あるいは差別や偏見などの冷たい顔です。どこの地域にも2つの顔があって、優しい顔が強くと、誰もが住みやすい地域になります。しかし逆の場合もたくさんあります。

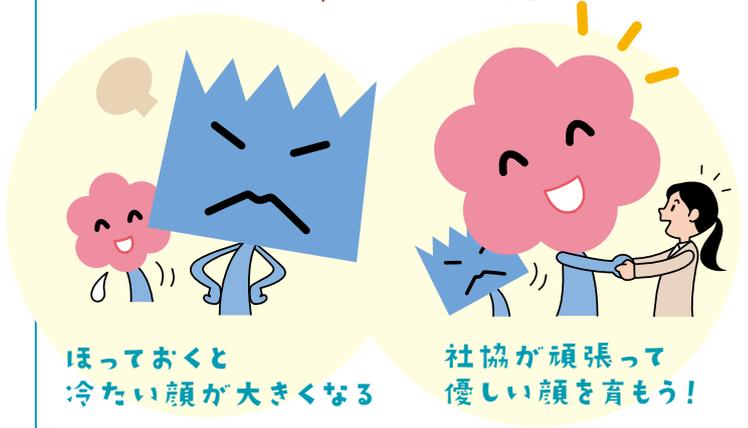
放っておくと、冷たい顔の方がどんどん大きくなってしまふのが地域というものです。でも「人間ってそんなものじゃないよね。お互いに支え合うことが大切だよ」ということを、福祉に無関心・批判的であったり、誤解をしている人たちに、「福祉観」を伝えていく必要があります。そうして一生懸命耕された地域では、「一緒にやろうか」「できることは手を貸すよ」という声が出はじめ、ボランティアも増えてきます。

成果が見えにくいのですが、その「福祉観」をどうつくっていくかが大切です。

## 社協はぶれない軸を持って

「住民の福祉意識」は総論賛成・各論反対と、よく言われます。会議の場など大勢が集まっている所では理解を示しているけれど、実際に隣の家に精神障害のある人が引

## 地域の2つの顔



越して来るとなると、よい顔をしなかったり、隣の家が認知症の一人暮らしの世帯になると、「施設に入れればいい」と、排除することがあります。

総論ではなく各論をどうするか。これが、これからの「福祉観」をつくっていく大事なところですよ。

冷たい顔を持つ人たちの中には声が大きかったり、権力を持っていたり、別の力を持っていたりする人もいます。それには、関係者が、「共に生きることを大事にするんだ」という軸をしっかりと持って福祉教育に取り組みなくてはなりません。そうすることが、その後の住民主体の地域づくりにつながってくるのです。

## 「我が事」にするための福祉教育

「他人事」になりがちな地域づくりを、地域住民が「我が事」として主体的に取り組める仕組みを作る土台となるのが「福祉教育」です。

幼少期から地域福祉に関心を促し、地域活動への参加を通して人間形成を図るため、就学前から義務教育、高等教育といったそれぞれの段階で地域貢献学習（サービスラーニング\*やボランティア活動）などに積極的に取り組み、福祉意識の涵養と理解を深めていくことが大切であるとしています。

こうした地域福祉の学びは、生涯学習の視点からも取り組む必要があります。

(地域力強化検討会\*中間とりまとめより)



### \*地域力強化検討会

地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制の在り方に関する検討会。「ニッポン一億総活躍プラン」に掲げられている地域共生社会の実現について、具体的に検討するため、日本福祉大学教授の原田正樹氏を座長として平成28年10月に発足しました。

## \*サービスラーニングのねらい

サービス・ラーニングは、奉仕活動（サービス）と学習活動（ラーニング）の実践を統合させた学習方法です。



## キーワード

### 地域福祉は、福祉教育で始まり、福祉教育で終わる

社会福祉協議会は、住民一人ひとりの福祉意識を育み、住民自らが自分たちの地域の課題を自分たちで解決していく「住民主体の原則」を大事にしてきました。

福祉教育で始まるとは、地域福祉への関心、きっかけづくり、福祉教育で終わるとは、住民主体で地域福祉が進んでいくということ。その過程を支援していくのが、社会福祉協議会の役割です。

## Q.2 福祉教育で何が変わるの？

長年福祉教育を実践してきた先生方のお話です。

### 1 「子どもが変わる」

理屈はわからないけれど福祉教育をやると子どもたちが一回り大きくなる。この事を体験的につかんだ先生は、この教育実践にはなにかあると確信を持っていたそうです。

### 2 「私自身が変わる」

大人は口先だけで「共に生きる」ときれいごとを言いますが、その結果、福祉は偽善だとか建前だとかそういう印象を受ける子どもたちもたくさんいます。ある先生は、「道徳教育」は人としてどうあるべきかという「規範を教える教育」であり、「福祉教育」は「価値をつくる教育だ」と言っています。

「共に生きる」ことが大事だなんてことは子どもたちも分かっているわけです。しかし、生活の中で重度の障害のある人と生きていくのは、そんなきれいごとではありません。そこをどう伝えていくか。それを伝えようとすればするほど、先生自身の「福祉観」が子どもたちにえぐられるのです。

福祉教育を30年以上実践してきた先生は、「子どもたちによって福祉観を変えられた」「私自身が変わった」と言っています。また、別の先生は、「福祉教育は、大人の後ろ姿を見せることなんだ。福祉とはなにかを子どもたちに説明するのではない。大人の後ろ姿を見せることが、子ども

## A. 子どもが変わり、「私自身」が変わり、周りが変わります



たちに福祉をわかってもらうことになるのです。

福祉は、まさに価値の話です。それをどう子どもたちに伝えていくか。伝える側の「福祉観」や「実践観」がなにより問われてきます。

### 3 「周りが変わる」

教師は、生徒の変容や成長に非常に敏感に気づくものです。福祉教育を実践しているクラスは生徒がまとまり、生徒が成長している。すると、「福祉やボランティアというのには何かありそうだ」と気がついた他の教師が関心を持ち、自分たちができることを探し始める。

やがて賛同する教師がたくさん出てきて、学級から学年へと広がっていく。そして、福祉教育やボランティアを体験勉強のさまたげと考えていた保護者自身も、子どもの変化を見て変わってくるのです。

## Q.3 質のいい福祉教育を行うには？

2002年に総合的な学習の時間が始まり、福祉が学校の指導要領に位置づけられました。その結果、先生側にやりたい思いはなくても、福祉教育をやらなければならなくなりました。福祉教育の形骸化の原因は、ここにあります。

しかし、より良くしていこうという仕組みづくりの議論はなされています。テーマは「協同実践」です。学校任せの福祉教育ではなく、「福祉のプロ」と「教育のプロ」が一緒になって質のいい福祉教育をしていく。そのために学校の先生・社協・地域の三者で共存していく方法を探する必要があります。



## A. 福祉のプロと教育のプロの協同実践が大切です

### 社協の弱点とは

社協側の弱いところは、小学3年生にも6年生にも中学生にも同じように話をしてしまうことです。例えば、「ノーマライゼーション」という難しい言葉をどうわかりやすく伝えるかといったときに、それぞれの学年に応じて翻訳してくれるのが、学校の先生です。

社協としては、地域の課題など、子どもたちに伝えたいことを整理し、プログラムを提案することが求められます。餅は餅屋で、互いにプロとしての腕の見せ所だと思います。

そこにはちゃんと福祉教育のメッセージがあり、そのための方法論があり、その度にどうしたらいいだろうかということ社協から学校の先生に提案しながら一緒に授業をつくっていく。これが「協同実践」という方法です。「協同実践」ができると、先生の負担が少なくなるだけでなく、質のいい福祉教育ができます。

## Q.4 学校と社協とのおつきあいはどうすればいいですか？

### A. 教育現場のこと、学校のことを社協職員は理解しましょう

社協職員にとって学校の先生とのおつきあいは、多職種連携と一緒にです。学校や教育の現場のことを社協側がしっかりと理解して共通言語で話せるかどうかにかかっています。

#### 学校の教育計画とのすりあわせを

小学校の校長室に行くとその学校の教育目標が必ず掲げられています。そこには、どんな大人に育ててほしいかという願いが込められていて、「優しい子」とか「思いやりのある子」とかという福祉的な人間像が入っています。

そうすると、福祉教育を進めるときに、教育目標と福祉教育が重なると説明する。それが分かるだけで、先生は興味を持ってくれます。

教育には教育の文化があって土俵があります。先生に福祉の土俵に上って下さいというのではなく、社協側が学校や教育の土俵に上って、そこで一緒に話ができる努力をすることが先決です。

いずれ、学校の先生も社協や福祉のことを理解してくれて、熱心な先生ならこちらの土俵にも来てくれるようになります。まずはこちら側が相手の土俵に入るための努力をどれだけするかが重要です。

#### 地域の窓口は教頭(副校長)先生

皆さんの社協は、3月、4月の異動があるとき、地域の学校にご挨拶に行っていますか？

熱心な社協の職員は、校長先生と教頭(副校長)先生の人事情報を把握し、お世話になった校長先生が異動するとなったら一番最初に挨拶に行きます。また、新しい教頭(副校長)先生が赴任してきたら一番最初に名刺を渡して、社協を理解していただくつながりを作っています。大概、教頭先生、または副校長先生がその地域の窓口になります。

また、皆さんの社協は、小、中学校で使っている教科書は全部持っていますか。あるいは、教育委員会で策定して

まずは相手の土俵の上へ！



いる教育振興計画を見えていますか。また、お付き合いする学校はどんな教育目標を掲げ、どんな教育計画を立てているのか知っていますか。そこまでちゃんと読み込んで先生方と話ができていますか。

学校のことを知らずして思いを伝えようとしても、伝わりません。

福祉教育を熱心に行っている市町村社協の中には、小学校1年生から中学校3年生の教科書を1セット、その教育委員会から譲ってもらい社協に置いています。何年生のどこの教科単元に福祉的な教材があるかということ把握しています。

そういうことを日頃から丁寧にしておかないで、「学校の理解がない」とか「先生たちは無理解だ」と言っても、それではなかなか上手くいきません。これは医療や法律家と連携するときと同じ話です。多職種連携を考えて学校とつながりをつくと良いのではないかと思います。

### 3月、4月はごあいさつの季節です



社協にも  
小学校、中学校の  
教科書をワンセット  
そろえましょう



# Q.5 コミュニティスクールにおける福祉教育とは？

## A. 子どもを通して地域の人たちを巻き込み、学校が軸となって地域づくりができます

高齢者が子どものためにというだけではなく、「子どもの頃、地域のおじいちゃんおばあちゃん、おじさんおばあさんにお世話になった」という原風景を今、作っておく。子どもへの福祉教育は、成人になったときに地域のことを考えてもらうための種まきでもあります。

コミュニティスクールは福祉教育の絶好の機会です。大人が子どもに一所懸命に関わるというのは、その子たちが大人になる20年後30年後の地域づくりをしているという発想で、福祉教育や子どもの支援をしていくことが大切です。

また、福祉教育は子どもだけでなく、地域の人たちに対しても必要です。子どもを対象にした学校の福祉教育は、授業時間の中だけだとそこで完結してしまうけれど、コミュニティスクールなら子どもを通して大人を巻き込むことができます。

そのプロセスに社協ががっちり関わっていくと、福祉教育の授業の中身だけではなく、学校を通して地域住民が



関わり、地域づくりを進めることができます。

社協と学校との連携ができてくると、コミュニティスクールと福祉教育ということでは、大変面白い展開ができるのではないかと期待しています。

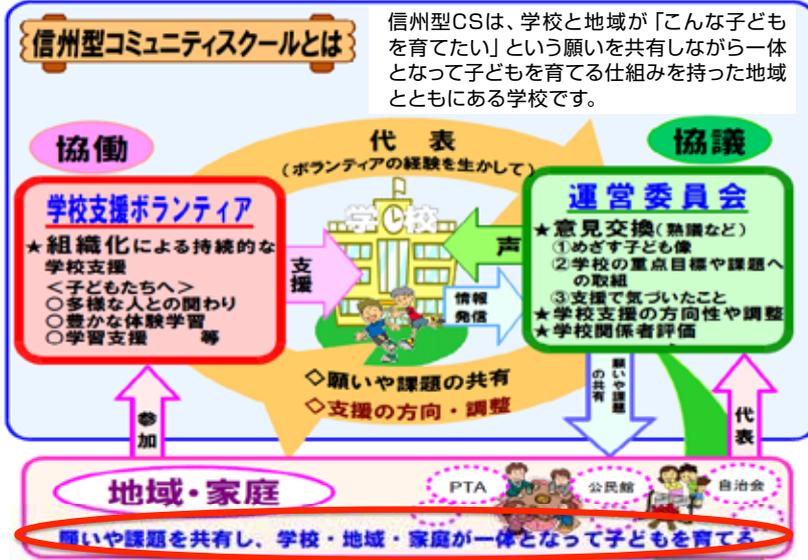
社協職員にも  
知ってほしい

# 「コミュニティスクール」

地域とともにある学校が求められています



## 信州型コミュニティスクールのイメージ



## 地域に開かれた信頼される学校づくり

社会がますます複雑多様化する中で、学校や子どもを取り巻く様々な課題を解決するためには、学校、家庭、地域が連携・協力して子どもを育てることが重要です。

長野県では、保護者や地域住民の皆さんを構成メンバーとする運営委員会が「学校運営参画」「学校支援」「学校評価」の3つの観点から学校の教育活動を支援する仕組みを信州型コミュニティスクールとして構築しています。

平成29年度末までに全ての公立小中学校での設置を目指しています。

資料：長野県教育委員会文化財・生涯学習課

# Q.6 教育福祉とは？

# A. 子どもたちの貧困や家庭環境など、生活課題などの分野です

「教育福祉」という分野があります。近年問題になっている子どもの貧困などは教育福祉の分野になります。社協が学校へ行って「福祉教育をやってください」と言うだけでなく、子どもたちの貧困、生活課題など学校の中にある教育福祉の問題を視野にいれて学校と関わっていくことが、これからのテーマです。

子どもたちの課題を社協がキャッチするというスクールソーシャルワーカー的な視点で関わることで、新しいステージに展開できます。

福祉教育と教育福祉によって、地域でどう子どもを支えていくか、コミュニティスクールなどを通して、これからの学校と社協の関係づくりにかかっています。

社協が学校に行くときは  
スクールソーシャルワーカー的な  
視点をもって  
子どもたちの課題を  
キャッチ！



キーワード

### 福祉教育は

- 福祉の価値を学ぶことが、子どもの成長の糧になる。(共に生きる力を育む)
- 福祉の生涯学習を通して、地域福祉を創る。

### 教育福祉は

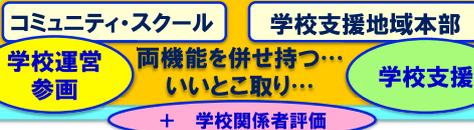
- 教育と福祉の谷間にある教育権と生存権の諸問題。(例) 子どもの貧困、貧困連鎖、家庭環境、虐待、ひきこもり、退学者、障害のある子どもの生活 等

## 信州型コミュニティスクールとは・・・

これまで築き上げてきた学校と地域が連携して子どもを育てる取組を土台とし・・・

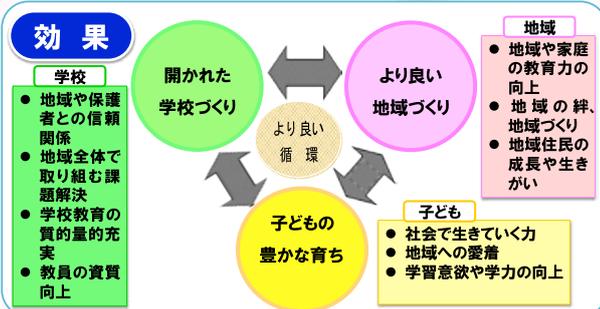
保護者や地域住民による ①学校運営参画 ②学校支援 ③学校関係者評価

を、**一体的・持続的に**実施していく仕組みを整えた学校



## 信州型CSによって

仕組みづくり → **仕組みを活用**



## 信州型CSと社協の協働のすすめ

南信教育事務所 生涯学習課 指導主事 林 尚之 先生

信州型CSの取組が、それぞれの学校の実情に合わせて行われており、子どもたちの笑顔のため、学力向上のために、学校と地域と家庭が協働しています。そして、地域の大人も子どもたちからエネルギーをもらい笑顔がこぼれています。地域の子どもの育成を目指して、学校と社協が協働して活動していくことによる可能性について5点挙げます。

- ① 地域福祉コーディネーターが学校の総合的な学習等に関わることで、地域課題（高齢者支援、貧困家庭への支援等）の解決に向かう学びを展開することができます。
- ② 学校支援のニーズの高まりに呼応し、地域ボランティアの活動を広げることができます。
- ③ 地域内の「互助・共助」を進めていくために、次の時代の地域を担う子ども達の地域福祉活動への参画を促す効果が期待できます。
- ④ 信州型CSの運営委員会を活用して、地域の支援する方との新たなつながりをつくるすることができます。
- ⑤ 学校での福祉教育を充実させることができます。

是非、みなさんの地域での活動を広げてみてください。

# ここは地域みんなの学校

## 駒ヶ根市立 中沢小学校

地域の中に学校がある、学校の中に地域がある



ホタルの幼虫を放流



音楽の授業



中沢地区の全戸に配布した「応援隊員募集」のチラシ

### 中沢小学校コミュニティスクール構想

- ◎中沢を知り中沢を愛する子を育てます。
- ◎中沢を元気にする活動を率先して行います。
- ◎中沢小学校に地域の世代間交流の拠点としての役割を持たせます。
- ◎「学校・家庭・地域の子どもたちを軸とした支え合いの循環」を構築します。



駄菓子屋さん



放課後学習

駒ヶ根市立中沢小学校は、明治42年(1909年)に地域の人の寄付によって建てられた学校です。1960年代には900名の児童が在籍したことがありましたが、今では地域に若い人も減り、児童数は108名となりました。

地域の皆さんによって建てられた中沢小学校は、創立以来地域にとって大切な場所でした。そうは言っても、やはり学校は、児童の保護者でもない、ちょっと行きにくい場所でした。

### 地域の人々が気軽に訪れる学校

ところが、今の中沢小学校には、そんな学校の敷居の高さは感じられません。「リンゴが採れたから食べて」「マツタケが出てたから持ってきたわ」…職員室には、地域の人々がひっきりなしに訪れます。授業をのぞくと、先生の他に地域の方がいて、定規の構え方を教えていたり、音読を聞いていたり、一緒に歌を歌ったりしています。

2012年度から、ボランティアの「中

沢小学校応援隊」が活動しています。環境美化や、放課後の宿題の指導を手伝ったり、炭焼き、田んぼ作り、ホタルの飼育、書道や墨絵の指導など、子どもたちに教えた得意技を持つ人たちが集まっています。

さらに2014年度からは、4名の学校支援コーディネーターが地域とのパイプ役として日替わりで勤務しています。保護者を中心とした「チョコっと部隊」も発足。「チョコっとだけ助けてください!」というメールが、学校から保護者に届きます。メールを見たお母さんたちがやってきては、子どもたちと先生を助けてくれます。保護者のお友達、近所の人…学校に出入りする地域の人々の輪は、どんどん広がっていきました。「チョコっと部隊」で授業のお手伝いに来たお母さんたちが、思いがけず新しいことを学んだりする場面も見られます。

こうして集まった地域の人々が、また新しい提案をしてくれます。「中沢も昔は賑やかだったけれど、すっかりさみし

くなったなあ」と、子どもたちが集まって遊べる「駄菓子屋さん」を、月に1度開いてくれました。「ボン菓子」の実演や紙芝居など、楽しいものをみんなが持ち寄って大賑わい。駄菓子屋さんには、小学校に上がっていない小さな子ども、大人たちもやってきました。小さな後輩も、お父さん、お母さんたちも、おじいちゃん、おばあちゃんも、中沢のみんなが集まる学校。多世代交流と呼ぶにはあまりに自然な、地域そのものが、中沢小学校の中にあるのです。

### 学校から中沢を元気に

子どもたちに中沢の良いものを伝えたい地域の人々と、猫の手も借りたいほど忙しい先生方。学校から中沢を元気にしたい、中沢を知り、中沢を愛する子どもを育てたい、という思いを共有しています。様々な世代の人が集い、学び合う。中沢小学校は、「子どもと共に地域も育つ」場となっています。



# 学校から中沢を元気にしよう！



中沢が好き！

中沢を大切にしたい！

子どもたちは中沢の宝！

中沢を愛し、中沢の子どもをしっかりと育てたい

中沢の伝統文化、歴史、生活体験を伝えよう！



生涯学習の場

## 中沢小学校 地域コミュニティの拠点



学校の現状を地域の人たちに知ってもらいたい。

Help me!  
毎日、忙しいんです！

地域の人と  
いっしょで  
楽しいよ！

世代間交流の場



出動！

毎月17日は応援隊の日

校内の環境整備  
作業なども……

中沢小学校  
応援隊

こんなことを  
教えたい、体験を  
させたい……。

学校支援  
コーディネーター  
(4名)

毎日学校へ  
ボランティア

応援隊  
チョコっと  
部隊

- 調理実習の下準備
- プリントの印刷
- 音楽・美術の実技指導 などなど

都合のよいときに  
いつでも学校へ

応援隊運営委員会

勉強は  
教えられんけど、  
学校へ行っ  
てみたい。

地域の人たち

子どもと  
いっしょに  
授業を受けたい。

地域みんなが応援隊員

学校での  
子どもたちの  
様子を見てみたい。

保護者  
(PTA)

登録



平日、  
30分くらいなら  
行けるかな。

## コミュニティスクール 取り組みのポイント

### 1. 学校の現状を共有する

先生方がどれだけの業務量を抱えているか、学校がどんな課題を抱えているか、どんな子どもたちが学んでいるか、いわゆる「学校の憂鬱」を地域の人々は知りません。学校はそれだけ、地域の人には敷居が高いのも事実です。学校の現状を共有し、地域の人は何ができるのかを、一緒に考えることが必要です。

### 2. 保護者も地域の住民

ゲスト講師を招いて昔の遊びを教わったり、畑や田んぼを作ったり。学校に関わるボランティアは、比較的高齢の方が多く傾向があります。しかし、もっと学校にとって身近な地域住民は、保護者です。保護者の持つ力やネットワークを活かすことで、活動者の幅が広がります。また、学校の中に三世代のつながり、学び合いが生まれてきます。

### 3. 学校を地域に開き、助けられ上手に

子どもたちと関わりたい、学校を助けられるという人は地域にたくさんいます。そんな人々と連携をしていくためにはまず自らを開くことが大切です。「助けて」と言えば、助けてくれる人がいます。「助けられ上手」が地域をつないでいきます。中沢小学校では、メール配信や学校ブログでこまめに「助けて」と言い続けています。

学校支援コーディネーターの方々には、応援隊の手配をしてもらっています。遠足の下見、炭焼き、蛍の飼育など、常時お手伝いをもらっています。放課後の同窓会室に子どもたちが集まって宿題をする「寺子屋」の学習指導もやって下さいます。

応援隊員の方による  
似顔絵



駒ヶ根市立中沢小学校  
教頭 高木幸伸 先生

# 地域をつなぐ憩いの場 学校を「まちの縁側」に

## 伊那市立 長谷中学校

「長谷の縁側」に地域の人が集います

長谷中学校は、全校生徒35名の小規模校です。学校のある長谷地域では、少子化と過疎化が進んでいます。高齢者世帯は増え、地域のつながりが薄れつつある中で、みんなが元気になれる「まちの縁側」ができました。

### 「まちの縁側」とは？

伊那市協では、「まちの縁側」づくり事業に取り組んでいます。いま、地域でのつながりが薄れてきています。一人暮らしのお年寄りやひきこもりの方などがゆるやかにつながれる昔ながらの縁側のような場所を市内に発見したりつくったりして、人間関係の再構築をしていこうとはじまった取り組みです。

公民館、学校、自宅、神社の森、お店の中など、あらゆる場所が縁側になります。



学校に来ることが嬉しいんだよ

長谷の縁側

縁側は憩いの場。地域の皆さんには、学校のお手伝いもしていただいています。



まちの縁側サミット in 長谷中

子どもたちの役に立ちたい



野沢菜づくり

自分たちを頼ってほしい



校内の清掃

### 学校・社協・地域で地域おこしを

伊那市の長谷中学校には地域の方が誰でも集える「まちの縁側」があります。子どもたちと地域の方が一緒にお茶のみや畑作業をしたり、時には駄菓子屋さんを開いたり、世代間交流を楽しんでいます。

きっかけは2015年の4月。長谷地区では、保育園、小学校、中学校と地域が一体化したコミュニティスクールの立ち上げを模索していました。「地域の方との連携を強め、学校から地域を元気にしたい」という長谷中学校の想いと、「高齢者が生きがいを持って元気に暮らしていける地域をつかっていきたい」という伊那市社会福祉協議会（以下社協）の想いが合致し、「学校・社協・地域で地域おこしをしていこう」と取り組みが始まりました。

当時、社協では伊那市に「まちの縁側」を増やしていこうと進めていました。「まちの縁側」とは、地域での人間関係が希薄化している中、誰もがゆるやか

に繋がれる昔ながらの「縁側」のような場所を市内に発見したり作ったりして、人間関係の再構築をしていこうという取り組みです。

その年の12月、長谷中学校のランチルームを会場に、「縁側」に興味のある方、「縁側」を実際に行っている方が情報交換をする「縁側サミット」を開催しました。当日部活動で学校に来ていた生徒も飛び入り参加し、自然な世代間交流が生まれました。「お年寄りだけでなく、子どもが入ったことで盛り上がりました」と高木幸伸校長は話します。これをきっかけに長谷中学校の空き部屋を縁側にしようと進み始めました。

### 将来の自分たちの居場所として

「縁側サミット」開催後、「地域の子どもは地域で育てる」を合言葉に「長谷学区地域支え合いの会」が発足しました。

「社協の方には地域の方と学校を繋ぐパイプ役をお願いしています」と高木校長。「社協が間に入ってくれたことで、地

域の方と交流する機会が生まれました。これからも学校では困難な部分を社協がパイプ役になって、突破口を開いてくれるととてもありがたいです」

「縁側」ができたおかげで、地域の方は学校に入りやすくなったといいます。また、学校ができないことを地域でやってもらい、地域だけではできないことを学校と一緒にやるという繋がりもできました。お年寄りという体が衰え健康に不安をもった方というイメージで、地域にいるお年寄りには視点がいかなかった子どもたちも、自分たちの元気な姿を見せることで、地域の方へ元気をあげたいという気持ちが育っています。

「高齢者の元気な姿や生きがいを持って輝いている姿を見て、子どもたちがこの地を誇りに感じてもらえるようにしたい」と願う高木校長。「縁側」を拠点としたコミュニティスクールの成否に長谷地区の将来を見据えています。



# 長谷地区コミュニティスクール “まちの縁側”



## 生徒数35人の小規模校の課題

かつては生徒数360人。50年間で地区の人口は3分の1、子どもの数は10分の1に……

生徒数が少ないと毎日大変……  
生徒会や部活動、当番活動など  
日常の教育活動だけでも  
個人の役割分担は加重

生徒や職員の多忙感

保護者の負担増

長谷中学校

地域との連携が必要

- 花壇作業
- 農作業
- 学習支援
- 環境整備活動など



伊那市立長谷中学校  
校長 高木幸伸先生

伊那市社会福祉協議会  
石川裕美さん

学校と社協の想いが合致

学校の課題は、長谷地域の課題

急激な少子高齢化社会による  
若年人口の減少、働き手の不足、  
医療福祉の後退、  
公共交通機関の切り捨て、  
学校存続の危機

人と人とのつながりの希薄化

伊那市社会福祉協議会

地域活性化と  
住みよい環境づくりを

高齢者が元気に生きがいを持って  
暮らしていける地域に(介護予防)

学校を開放して、地域の憩いの場をつくり、  
そこに集う皆さんに学校のお手伝いをしていただければ、  
協働の地域、地域の活性化が実現できるのでは……

地域と学校が手を携え、  
長谷を愛する子どもたちを育てていこう!

学校がエンジンとなって地域を活性化させる

「長谷学校区地域支え合い計画」の推進

## 長谷地区コミュニティスクール構想

保育園から中学校まで、長谷学区全体を包括する信州型コミュニティスクール組織「長谷学区地域支え合いの会」が作られることとなりました。

長谷の宝、子どもたちを大人みんなで見守りたい。



長谷学校区支え合いの会  
平成28年4月 スタート!



花の苗づくり



農業体験実践活動

学校畑、耕作放棄地で野菜や稲を栽培し、給食に提供しています。



多世代交流



「長谷の縁側」をスタート!  
20番目のまちの縁側に登録。



保育園児らと落花生の収穫

平成29年度 福祉教育推進フォーラム◎事例紹介 鼎談より

## 長谷の縁側 長谷学区コミュニティスクールの事例から 学校・社協・地域でつくる、みんなの居場所

報告者 高木幸伸氏 伊那市立長谷中学校 校長(駒ヶ根市立中沢小学校 前教頭)  
 石川裕美氏 伊那市社会福祉協議会 地域福祉係 地域福祉コーディネーター  
 助言者 原田正樹氏 日本福祉大学学長補佐



原田正樹氏

高木幸伸氏

石川裕美氏

### 教職員間の合意形成は？

**原田** 現場の先生方にとって、本来業務は生徒たちの授業にあり、「どうしてコミュニティスクールで地域のこままでしなければいけないのか？」という負担感があると思うのですが、高木先生は学校の中でどんな合意形成をされたのでしょうか？

**高木** 先生にとって学校の中に地域の方が入ってくるのは聖域を崩されるような感じで嫌がります。なにかを提案する度に、個人情報や保険はどうするかといった質問が先生方からいっせいにいられ、問題がクリアできなければ次に進めない。合意形成を待っていると何もできないんです。そこで、まずできることから始めていきました。それが一つできたら次のステップへと進めていきました。

中沢小では、週一回応援隊の方々に

子どもたちの勉強をみてもらう放課後の寺子屋でした。長谷中は長谷の縁側です。今のところ職員全員の合意を得られていませんが……。

**原田** 最初から全部合意ができたら始めましょうではなく、実践できることから始め、活動の成功例を示し、実績を一つ一つ積み上げていく。これは社協組織の職員も参考になりますね。

### マスコミを積極的に利用する

**原田** コミュニティスクールの活動を地域に広く発信していくために、マスコミを積極的に活用されたようですが……。

**高木** 新聞やテレビなどで学校の活動を見た人たちが今度は、「こんなことを出来る人がいる」「それならこうしたらどうだろう」と、いろんな情報を学校に押し戻してくれます。積極的にプレスリリースをして活動を知ってもらい、それによって地域からの情報を集められ

るわけです。

**原田** 注目度が高まることで情報が入ってくるわけですね。

**高木** 学校も地域もお互いに活動が認知されるという最終目標があればいろいろなことができます。もちろん、市、教育委員会にはあらかじめこういうプレスリリースをしますと伝えます。

### 学校支援コーディネーターはどんな人を選べばいいのか

**原田** 学校支援コーディネーターの活用が大事だと指摘されましたが、その方たちを最初に選ぶ基準というのは？

**高木** 例えば中沢小の場合、共通するのはいずれも元区長の方々でした。だから顔が利く。顔が利くということは押しが強い。学校でなにか協力してもらうときにも、現区長、区の評議員、教育長に押しがきく。

また、お孫さん、もしくはお孫さんと

## 学校をまちの縁側に 長谷学区コミュニティスクール 学校・地域・社協 協働のために行った工夫

### ① 社協事務局長と共に校長先生と面会

➡ 社協と学校と一緒に事業をすることを、上司も含めて確認

### ② 担当者レベルでなく教育委員会の担当職員を巻き込む

➡ 準備会に入ってもらうことで、活動に関するコンセンサスを得る

### ③ 地域の総合支所長に協力を依頼

➡ 地域資源を把握するために、準備会に入ってもらう

### ● 準備会の開催

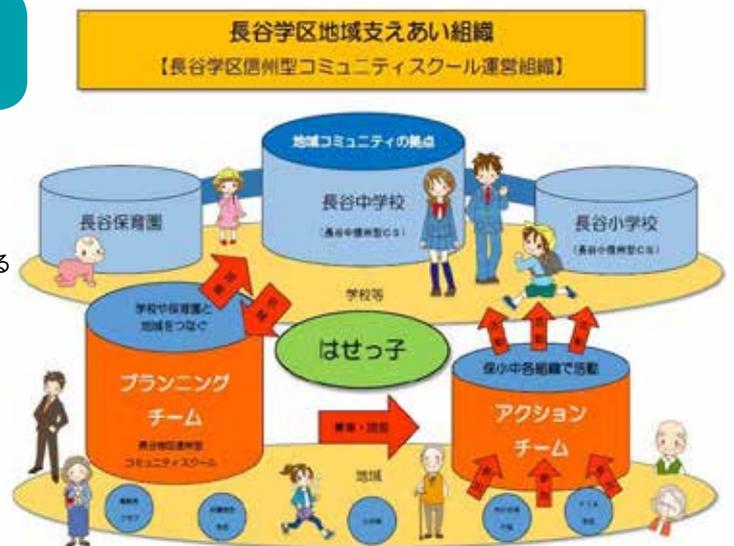
- ・高木校長と支所長と共に準備会メンバーを選出
- ・準備会の開催、コーディネートは伊那市社会福祉協議会が行う

### ● 準備会メンバー

行政関係：総合支所長、公民館長、教育委員会指導主事  
 学校関係：中学校(校長、教頭)、小学校(校長、教頭)、  
 保育園(園長)

地域関係：主任児童委員、地域郷づくり会

社協関係：事務局長、地域福祉係長、福祉活動専門員



組織体制は、学校や保育園と地域をつなぐパイプ役となる「プランニングチーム」、各小中学校や保育園で実際に活動を行う「アクションチーム」の2チームで構成されます。

近い世代がいる方。それから何か他のパイプを持っている方、市議会議員とか信用金庫の職員の方ですね。それぞれ年齢が近い方をお願い、今度はその人たちが競い合ってこんなことをやってくれ、あんなことをやってとなくなりました。

**原田** 地域住民の力関係などにも目配りをしながら、取り組みを推進していくためにどの人に入ってもらえば事が為せるのか。そういう人たちをうまくつなぎながら、作戦的にコーディネーターの方を選び、結果としてひとつの形が動き始める力になる。高木先生は非常によく考えていらっしゃいますね。

社協の石川さんは地域福祉コーディネーターとしていかがですか。

**石川** 誰が窓口になってくれるとうまく話が進んでいくのか、気を配るようにしています。相談する人を間違えないようにスムーズに校長先生のオーダーに応えられるようにと心がけています。

学校も社協も目指しているところは同じだということを常に確認しながら地域の方にお話をしながら関わっていただけるようにしています。

**原田** 学校の方向性と社協による地域づくりの方向性が同軸になって進められていますが、最初から噛み合っていたのでしょうか。

**高木** 社協の担当係長と話を進める中で、話がずれていってしまいました。双方ができるところ、すり合ったポイントだけをひとつずつ鎖のようにつないできました。その接点だけで前に進みながら今鎖を太くする作業をしています。

**石川** 社協としては「長谷の縁側」の取り組みを伊那市全域にどう展開していくかが、次の課題になっています。

また、校長先生からは「長谷の縁側」に来るための参加者の足の確保、送迎について依頼されているのですが、どうすればいいのか社協内で検討しています。

**高木** 縁側は常時開放ですが、例えばプレミアムの日を決めて、その日は社協さんに送迎など協力していただきたいとお願いをしています。

### 社協に期待することは

**原田** 社協が関わるメリットはなんだと思いますか？

**高木** 今年の生徒会の目標は「長谷復活」です。中学生が地域のためにできることをしようというものです。当初、生徒らは震災被災地への募金を主な活動に掲げていました。そこで、この長谷村にどれだけ人のつながりを求めている高齢者がいるのか、どれだけ生きがいを求めている人がいるのか君たちは

知っているのかと、社協さんから高齢者の生活実態アンケートを頂いて見せたことで、子どもたちの意識は一発で変わりました。そうした情報を我々教員は持っていません。いままでボランティアは遠いところしか見ていなかった子どもたちが、今度は本当に自分たちのお年寄りのために。地域の人たちのためにできることはなにか、視点を足元に向け始めたのです。

**原田** 被災地に向ける意識は大事なことだけれど、それだけがボランティアではありません。学習素材として自分たちの地域や足元の生活の中でどういう課題や現状があるのかを社協がしっかり伝えていくことで、生徒たちは自分たちの地域のことに目を向けるようになっていく。そんな地域と学校との対応ができるような素材を社協が提供することで子どもたちが変わっていく好例だと思います。

本日はありがとうございました。



地域の方と交流する活動を始めました

## 世代間交流のキーワード「PTA」

コミュニティスクールは、小学校と比べると、中学校では取り組みが限られます。保護者は仕事があり、平日に学校に来てもらうのは難しく、直接的な協力が得にくい。そこで、保育園や小学校と連携し、20代の保護者から80代の祖父母まで一緒に活動することで、世代間交流が深まり、地域全体で子どもたちを育てられるのではないかと考えています。

地域の大人全員がPTAとして活動してくださるようなコミュニティスクールにしてみたいです。(高木校長)

「縁側」で開いた駄菓子屋さんは地域の方と一緒に販売できて、とても新鮮で楽しかったです。

学校の中に地域の方が集まれる場所があると、みんなで集まって話ができるのでいいですね。地域のことを詳しく教えてもらえるので勉強にもなります。

長谷は、自然が多くて空気がきれいだし、地域の方との距離が近いのもいいなと思います。将来はできれば長谷に住みたいかな。出て行っても戻って来たいと思っています。



長谷中学校生徒会長 野口秀太くん

学校職員も、助かっています。



伊那市立長谷中学校 高木校長

生徒たちは、地域をつなぐパイプ役を果たしています。



伊那市社協 石川さん

まちの縁側は、高齢者の孤立防止や介護予防にもつながっています。



昔懐かしい駄菓子屋さんを「縁側」で。

## Q.7 高齢者疑似体験の落とし穴とは？

## A. 1回だけの体験では負の印象だけで終わりやすいです

体験型プログラムは目的がどこにあるのか、明らかにする必要があります。

例えば、介護技術を身につけるといった目的であれば、疑似体験でも十分です。大学生や専門学校の学生など社会福祉士や介護福祉士のような専門職を目指すに人にとって、疑似体験はすごく大事です。介護される人の気持ちが分からないと、よい支援につなげることができず、体験を通して学ぶことで、専門職の学びを深めることにつながります。

では、小中学生に介護技術を教えることが福祉教育の目的かといえば、そうではありません。

伝えたいのは介護技術ではなくて、「人が生きるってどんなこと？」「障害ってなあに？」「老いるってどんなこと？」といったその種まきをすることです。

疑似体験をするのであれば、目的をはっきりさせて、それに合った方法を考えていくことが基本です。その視点の気づきを沢山見つけられるプログラムを行うことで、福祉を自分のこととして考えられるようになります。

### 連続したプログラムの一つとして

少なくとも3～4回は連続して行うのがいいでしょう。初回の体験では気づきやどういう意味があったかを考え、2回目は、当事者の方に話を聞かせてもらうといった連続したプログラムの中の一つに疑似体験を組み込んでください。車椅子やアイマスクなど、一回の疑似体験では、「怖かった」「大変だった」と負の印象だけで終わってしまいやすく、むしろ疑似体験はやらない方がいいと思います。

## Q.8 ICFの大事な視点とは何ですか？

## A. 「強みを大事にする」視点です

最近ではICF（国際生活機能分類）の考え方が医療・福祉など様々な分野に広がってきています。福祉教育の学習プログラムにもぜひICFの視点を取り入れてみたいかがでしょうか。ICFは生活機能に着目しようという考え方で、障害があるかないかではなく、その人の「できること」と「できないこと」は何なのかを考えます。

一番大事なのは、「ストレングス（strength）＝強み」で

す。例えば障害がある方と交流をしたとき、「できること」と「できないこと」の両方を丁寧に伝えていくことで、障害に対する捉え方が変わるので。

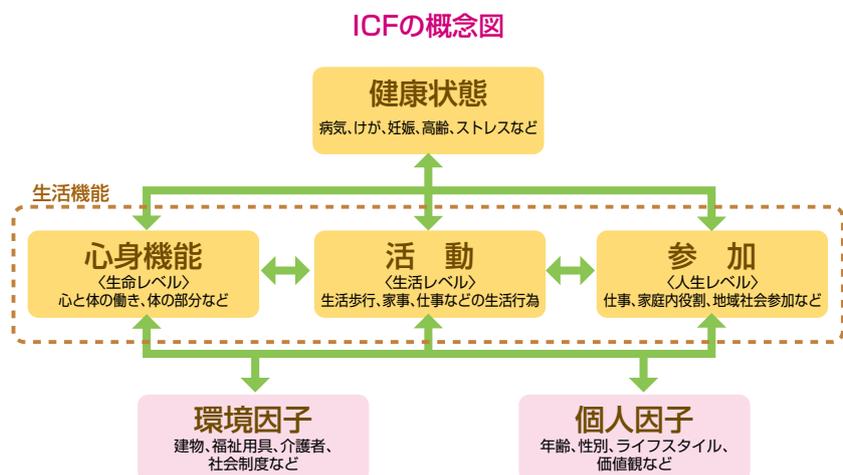
その人の強みやできること、得意なことにもっと可能性を広げていけば、相対的にその人の人生の質を良くしていきます。そして、強みを大事にする視点は、個別援助だけでなく、地域援助にもあてはまります。

## ICFの視点

ICFとは、「人の生活は環境（環境因子）によっても左右され、同じ障害（心身機能・身体構造）であっても、その人の性格や成育歴、価値観（個人因子）によっても、活動や参加の状態が変わる」という考え方です。

そして現在、障害の捉え方から発生したこの考え方は、高齢者や子どもなど、社会で生活する誰に対する福祉を考える場合でも適応できる考え方として重要視されています。

ICFとは、International Classification of Functioning, Disability and Healthの頭文字を取ったもので、「国際生活機能分類」と訳されています。人の健康に関する状況を表すための標準的な概念的・言語的枠組みとして、WHO（世界保健機関）で採択されました。



## 全盲の女性との交流

アイマスクなどの疑似体験をして、目が見えなくて大変なんだ、目が見える僕たちはどうしようかと考えさせて終わったとしたら、子どもたちにとっての視覚障害は、マイナスの部分だけで終わってしまいます。

そこで、全盲の方との交流で、目の前でリンゴの皮をむいてもらう。すると、子どもたちは「目が見えないのにナイフを持って大丈夫なの」と心配しながら注目します。ところが彼女がくるくるっとむき始めたときに、「うわあすごい」「僕より上手だ」と、歓声があがり、むき終わるころには、「僕のお母さんと同じだ」という声がかかります。リンゴの皮をむくわずに数分の中で、子どもたちはその人の生活に深く興味を持つようになります。

そのあと、彼女の家での様子や、補助具の紹介、買い物の場面といった日々の生活の様子を紹介してもらいます。すると、「目が見えないけどこんなにできることがある」ということが見えてきます。質問タイムでは「こんなとき

はどうするの」「あんなときはどうするの」と素朴な疑問が飛び交います。

そして最後に彼女はこんな話をしてくれました。

「でもね、おばさんは、初めて行くところ、知らないところだと怖くて一歩も足を踏み出せないんだ。そんなときにはみんなが声をかけてくれるとほんとにうれしい。」

目が見えなくてもできることはたくさんあります。しかし、そこだけを伝えても障害を伝えたことにはなりません。

「できること」と「できないこと」の両方を丁寧に伝えていくことで、障害に対する捉え方が変わります。



## まちづくりにつながる福祉教育 「ふるさとアルバム探検隊」

長崎県のある離島の社協が、とっても素敵な地域ぐるみの福祉教育をしています。その離島は、人口が少なくなり、限界集落が増え、島全体が元気がありません。そこで社協は何をしたかという「ふるさとアルバム探検隊」という子どもたちのチームを作って、地域の人の情報を集めてムービーを作ろうという取り組みをしました。

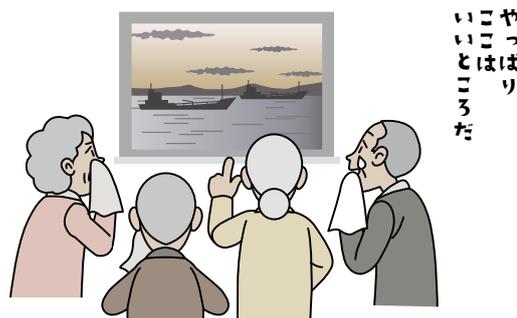
夏休みに子どもたちは地域の人の家に行き、昔の頃の写真を、エピソードを必ず聞いた上で、借りてきます。集めた写真は、社協で一本のムービーにします。台本は子どもたちがお年寄りから聞いたエピソードをつなぎ合せて、ひとつの物語を作り、できあがったムービーの上映会をします。



上映会に集まったお年寄りや地域の方たちは、映像を観ながらボロボロ泣くんです。昭和40年代、まだ島に元気があった様子が映される。懐かしんで泣いているだけではなく、それを観終わった後、「やっぱりこの島ってこんなにいい所だったんじゃないか」「もう一度町を元気にしようよ」という声が、子どもからも大人からも出てくるんです。

それ以前は、大人が集まってまちのことを協議すると、「人がいなくなって、あれがないこれがない」そんな議論ばかりで、子どもたち自身も、島に劣等感を持っていました。親も「早く島から出ていかなきゃだめだ」と言っていました。それがこの取り組みによって、「やっぱりこの島はいい所だ」「こんないいふるさとなんだ」と前向きな発想をするようになりました。

私は、この取り組みを「地域の回想法」と呼んでいます。まさに、社協ならではの取り組みで、こんな街づくりにつながるような福祉教育も、ICFのストレンクス、「強み」を生かした素敵な実践だなあと感じます。



テーマ

# 「ちがいとおなじ」

四賀小学校5年1組では、障がいのある方をゲストティーチャーに迎え、諏訪市社会福祉協議会のサポートで「ちがいとおなじ」をテーマにした実践授業を行いました。

## ねらい

自分とは違う立場の人の生活や生き方を学びながら、自分と他者との「違い」や「同じ」について考えます。

## プログラムの目的

障がいの有無ではなく、地域に住む同じ住民として、同じところもあり、違うところもあるという視点に気づく。

## プログラムの内容

### 1 事前学習の個人ワーク 「〇〇さんについて書いてみよう」

自分の好きな人のことを思い浮かべて自分と同じところと違うところを書く。  
※家族でも芸能人でもよい。

### 事前学習の個人ワーク

**「〇〇さんについて書いてみよう」**

5-1 氏名 \_\_\_\_\_

1. 自分の好きな〇〇さんを思い浮かべて書いてみよう。  
私の好きな〇〇さんは \_\_\_\_\_ さんです。

2. 〇〇さんと私の「同じ」ところ（共通点）はどんなところですか？  
どんなことでも思いつくことを全部あげてみてください。


3. 〇〇さんと私の「違う」ところはどんなところですか？  
どんなことでも思いつくことを全部あげてみてください。


4. 〇〇さんの好きなところはどんなところですか？

諏訪教育会福祉教育委員会  
諏訪市社会福祉協議会  
諏訪市立 四賀小学校5年1組



### 2 ゲストティーチャーの紹介 Tさん(視覚障がい)と Nさん(手の機能に障がい)

\*障がいを含めて、どんな方なのかは、子どもたちに詳しく伝えない。

### 記入例

好きな人：Kさん(友だち)

<b>同じ所</b>	いつも意見が言える。いろんな事に積極的に取り組める。スポーツが好き。サッカークラブが一緒。サッカーが好き。年が一緒に性別が同じ。
<b>好きな所</b>	いつも意見が言えるところと色々な事に積極的に取り組めるところ。
<b>違う所</b>	いけないところを注意できる。いつもグループなどをまとめてくれる。運動神経がいい。あと性格。ドッジボールが強い。足が速い。
<b>好きな所</b>	いけないところを注意できる。いつもグループなどをまとめてくれるところ。

### 児童の感想

#### 友だちの発表を聞いて感じたこと・学んだこと

- どんなに好きな人でも同じところもあれば、違うところもある。
- 好きな人にも自分と違うところもある。
- 自分とちがうところあってもそれは、ふつう。
- ちがうところがあってもいい。当たりまえ。

### 3 18項目の質問「私と〇〇さん」 ゲストティーチャーと交流

最初に自分の欄を記入したあと、Tさん、Nさんの2つのグループに分かれて、質問しながら記入していく。

### 4 ふりかえり

#### 児童の感想

#### お話をきいて素敵だなと感じたところは？

- 手が不自由でもカメラマンの夢があるところです。
- 目が見えなくても編み物ができるところです。
- 目が見えなくても点字の読書ができるところです。
- やると決めたことを最後まで頑張ると言っていたところです。など

#### 交流を通して感じたことは？

- Tさんに出会って、たいへんなことでも乗り越えようとするところがとてもすごかったので、私もたいへんなことでも頑張ろうと思いました。
- 大人になっても夢があるって素敵だなと思いました。
- 不自由なことがあっても、将来の夢があって、その夢をあきらめないところがすごいと思いました。
- 人には似ているところもあるし、違うところもあるんだと感じました。 など

### 成果・課題

#### 担任の先生より

- ◎社協の方・ゲストティーチャーと共に授業を行なうことで、担任だけではできない授業を行なうことができました。
- ◎社協の方から専門的な見地から助言をいただくことで、子どもたちにとってより現実感や説得力をもった授業となりました。
- ◎実践主体としての学級担任（授業者）の主体性は重要です。授業のねらい、児童生徒の実態の把握等を充分行った上で、何をどのように手伝っていただくのか、既存の学習プログラムをどう修正すべきか等をしっかり相談する必要があります。

### 「私と〇〇さん」

5-1 氏名

1. 〇〇さんに話を聞きながら記入しよう。

	自分	Tさん
年齢は？	10才	7才
誕生日は？	11月18日	11月18日
住んでいる場所は？	四賀	上野原町の馬の近く
よく行く所は？	万代書店	ゆうじんきょく、333ビルナニヤ
好きな食べ物は？	生ハム	なんでも
苦手な食べ物は？	コーン、豆	かひいそり
好きな教科は？	国、理科	特になし
苦手な教科は？	国語	算数
得意なことは？	ダンス	あみもの読書
好きなことは？	ダンス	音楽をきく
苦手なことは？	きゅういんをやること	アヒル入った時にこまる
がんばっていることは？	ダンス	きいたことをきいてしまふやる。
人に手伝ってほしいことは？	きゅういんを食やてほしい	かくこと
将来の夢は？	かんこいさん	元氣かなかつづきしてほしい
よく見るテレビは？	ぐでたま	特になし
休み時間にする遊びは？	いろいろ	竹馬、なやぐり
親に叱られることは？	おそくてしかられる	只葉かこい、きょういんがわるい
生活の中で困ることは？	先生かうるさい	カイルカうるさい

2. 私と〇〇さんの同じところ・似ているところはどんなところですか？

たんじりか同じ

3. 私と〇〇さんの違うところはどんなところですか？

たんじり以外、髪全部ちがう

4. 〇〇さんの素敵などところはどんなところだと感じましたか？

ダンスでよくか出来ることかすごい

5. 交流をとおしてどんなことを感じましたか？

不自由なところかあっても、中身かあ、て、その中でかまわなくてかばんづろうとしていいるところかすごい。

#### 社協担当職員より

社協では、次の視点で学校と関わっています。

1. 子どもたち（地域住民）の「共に生きる力」を育みます。→福祉意識を高めることが地域福祉につながります。
2. 「ふくし」は特別なものではないことを知ってもらいます
3. 特別な学習ではなく、日々の生活とリンクしたもの、また、その後の生活などにつながるようなプログラム展開を意識します。
4. 講師の生活、性格、強み、価値観などを把握することで対象に合わせた講師調整をします。

学校と関わる際に意識していることは、担当の先生と直接会って話す機会をつくり、先生の想いを共有するようにしています。クラスの雰囲気や抱えている課題、子どもたちの興味関心、これまでの学習内容、本年度の取り組みなどを知っておくことが必要です。

今後も学校、地域、社協が協働して実践していくことを意識し、学校の学習とリンクした取り組み、積み上げ型の学習を提案していきたいと思えます。



# ＊ぼくらは子どもディレクター！

動画や新聞をつかってまちの魅力を発信しよう！

やまびこだより No.142 (2016年度)より

## ドキュメンタリーを制作 街のヒーロー・ヒロインを探せ！

上田市立 清明小学校

5年生



ビデオカメラを持って街のヒーロー・ヒロインを取材して、ドキュメンタリーを作りました。

偉人や有名人ではないけれど、まちのためにがんばっている人がいる。それが僕らのヒーロー、ヒロイン！



本番に備えて取材の練習



大切なことは「何を伝えたいか」です！

プロの方にご協力いただき、コツを教えてくださいました。

- こんなまちの人を取材しました**
- どんなけがでも治すスーパー院長
  - 街のためにがんばる自治会長さん
  - 私たちを見守る安全パトロール隊の方
  - 震災でも活躍するKさん
  - 私のすごいおじいちゃん……など

地域の人にも喜んでもらえてよかったです！



取材していただき、光栄です。ありがとうございます。



取材はドキドキするけど面白い！

ビデオカメラの貸し出しなど地元ケーブルテレビにもご協力いただきました。



パソコンで動画を編集

### 街の魅力を再発見！ 地域の方が主役のドキュメンタリーを制作

上田市立清明小学校は、上田城跡の近くにあるまちなかの小学校です。5年1組では、「街のヒーロー・ヒロインを探せ！」をテーマに、地域の方を主役にしたドキュメンタリーを制作しました。4年生のときにクラスで創作ドラマを作ったのがきっかけです。

「なにかを創ることに対して子どもたちはとても真剣でした。せっかくなら、制作をとおして自分たちの住む街のことを知れないかと考えました」と話すのは担任の平林浩先生です。

「地域のために活動してくださっている方や、頑張っている方など、身近にもヒーローやヒロインはたくさんいます。そのような方がいるから、街が成り立っている。ドキュメンタリー制作をとおして、地域の良さを再発見できればと思い、始めました」。

1学期には児童一人ひとりが取材をし

たい人を決め、夏休み中に撮影に行きました。地域のために頑張っている自治会長さんや、毎日見守りをしてくれる安全パトロール隊の方、地域の環境を守ってくれている方、など思い思いの「街のヒーロー・ヒロイン」を取材しました。



校内で作品を上映

ドキュメンタリーの完成後、学校に地域の方を招待して上映会を行いました。取材を受けた方からは、「私が伝えなかったことがきちんと伝わっていて嬉しかった」「これからも地域のことに興味を持ってほしい」などの感想を頂きました。

ドキュメンタリー作品は12月には地元のケーブルテレビでも放送されました。地域の方の想いは、ドキュメンタリーをとおして子どもたちへ、そして大人たちにも広がっています。

### 「こんな人がいたな」「あんな話を聞いたな」といつか思い返してくれればいい

子どものうちに経験したことは、すぐに役に立たなくても将来に必ずつながっていきます。だから大人になったときに、地域にこんな人がいたな、あんな話を聞いたな、と思い出してもらえるだけでもいい。故郷を愛せる子に育て、未来の地域を支えてほしいですね。



清明小学校 5年1組 担任 平林 浩 先生

# 廃線になっても中山を忘れないで！ 手作り新聞・パンフレットを 配ってふるさとをPRしよう！

松本市立 中山小学校

やっぱり中山が  
好きだから……



バス路線がなくなるとさみしい……  
中山の良いところを知ってもらい  
たくさんの人に来てほしい！

新聞作り

4年生

パンフレット作り

6年生



新聞の配布準備。  
A4判に縮小コピーして  
1人20部ずつ配りました。



読んだ人が  
喜んでくれると  
思いながら作ると  
楽しいね。



「中山新聞」はA3判で手書き。  
4年生17人が1人1紙を制作。



パンフレットはA4判の三つ折り、  
6年生21人が5班に分かれて作成。

インターネットや本で調べたり、  
地域の方からも中山のいい所を  
教えてもらったり……。



JR松本駅前広場と松本城公園で、出来  
上がった新聞とパンフレットを配りなが  
ら、元気よく中山をPRしました！

中山はいいところです。  
ぜひお越しください！



ステキなところ  
みただね。

松本城や松本駅前配りました

中山のことを  
知っていただけると  
うれしいです！

調べて、作って、配って発信！  
子どもたちによる“地域おこし”です

中山を離れても、  
いつか戻ってきたいな……  
と思ってもらいたい



中山小学校 6年生担任  
今井文 先生



中山小学校 4年生担任  
柿沼佑樹 先生

## 手作りの新聞とパンフレットに ふるさとへの思いを込めて

「中山にお越しく下さい!」。平成28年9月、松本市立中山小学校の4年生と6年生が、松本駅前と松本城公園で地元をPRするパンフレットと新聞を配布しました。きっかけは市街地と中山を繋ぐ路線バス廃止のニュースでした。4年生の新聞を作る単元と6年生のパンフレットを作る単元を使い、「中山をPRしよう」と取り組みは始まりました。

「廃線と聞いて、指をくわえて見ている人にならなかつた。自分たちにでき

ることを考えたり、なにか動いてもらいたかつたんです」と、以前から新聞活用(NIE)の実践を続けてきた4年生担任の柿沼佑樹先生は当時を振り返ります。

新聞とパンフレットは、地元の方への取材や写真撮影など、すべて子どもたちが行い作成しました。「自分たちも知らないことがあった」「中山の良いところをたくさん知れた」と子どもたち。取材をするなかで、地元の良さにたくさん気づくことができたようです。

「新聞を作って地域外の人に配ること

で、子どもたちも地域への関心が高くなりました」と柿沼先生。

「外へ向けて呼びかけることも大事ですが、子どもたち自身が「こんなにいい所があるんだ」と気づいて、大人になったときに戻って来たいと思う気持ちを育てるきっかけになれば」と6年生担任の今井文先生は続けます。

見出しには「中山に来てください!」「良い所です!」の文字。中山への熱い想いが伝わってきます。

## 四季折々の魅力を感じて 瑞穂の宝がいっぱい

### 飯山市立 東小学校

やまびこだより No.140 (2016年度)より



ぼくたちのえんそう  
僕たちの演奏を  
聞いてもらえて  
うれしいです！

「菜の花公園」の  
朧月夜音楽祭に参加



早く大きく  
なってね！

「福島の棚田」



「神戸の大イチョウ」

うわ～！  
イチョウが  
まぶしいね！



冬の「菜の花公園」

**私** たちの通う東小学校は、飯山市の北東、瑞穂の里にあり、四季折々にたくさんのお宝があります。いくつか紹介したいと思います。

まずは「菜の花公園」です。菜の花は、全校で種をまいて「菜の花さかせる会」の方と咲かせています。全国各地から多くのお客さんが毎年見に来てくれるのがとてもうれしいです。

次は、棚田百選の「福島の棚田」です。

春には全校児童 52 名が、棚田を管理して下さる方や保護者の皆さんと力を合わせて田植えをしました。できたお米は、次の年の給食に出ます。おいしくて、1年生もおかわりするほどです！

3つ目は「神戸の大イチョウ」です。秋の紅葉は、周りをぱっと明るくし、黄色のじゅうたんみたいですばらしいです。落ち

葉の様子から、その年の積雪を占う「雪例樹」とも呼ばれていて、ずっと大切にしたい自慢の樹です。

そして冬は、「菜の花公園」一帯が銀世界になります。ここでのクロスカントリースキーは、空をすいすい滑っているようで最高です。

たくさんのお宝をこれからも大切にし、多くの方々に知ってほしいです。

## ふるさと新発見！ 地域には先生がいっぱい

### 大町市立 八坂小学校

やまびこだより No.140 (2016年度)より



学校自慢の  
「いろりの部屋」  
で作ります。

「郷土学習交流会」灰焼きおやき作り



「八坂体験の日」竹細工

早く飛ばして  
みたいな！



ブルーベリーが  
学校でたくさん  
採れるよ。

「お手玉作り」

上手に  
できるかなあ。

**八** 坂小学校は、全校児童 39 名の小規模校です。本校には地域の方とふるさとについて学ぶ学習活動がたくさんあります。

例えば全校で大切にしている「花作りの活動」では、一緒に種をまいたり、苗を花壇に植えたりしています。春、秋どちらも見事な花が咲き、とてもきれいです。

「八坂体験の日」や「郷土学習交流会」

には、地域の方を先生に迎え、干し柿を作ったり、そばを打ったり、わら細工でしめ縄などを作ったりしています。また、クラブ活動でも竹の水鉄砲や弓矢づくりなどを教えていただき、みんなで楽しみました。

自然から学ぶこともたくさんあります。八坂は山村留学はじまりの地であり、今年度

も 9 人の山留生（山村留学児童）が県外から来て生活しています。山留生は、一年のうち半分は地域の農家にお世話になります。採れたてのブルーベリー、キイチゴ、プルーンなどを食べたり、きのこの栽培などをしたりして、都会ではできない楽しく貴重な体験をして毎日過ごしています。

みんなでふるさとのよさを発見し、もっともっと八坂の伝統・文化・自然にふれていきたいです。

## 地域を語れる大人になりたい ふるさと新野の伝統

### 阿南町立 新野小学校

やまびこだより No.142 (2016年度)より



みんなで踊ると楽しいな。

新野の盆踊り

自然と体が動いちゃう。



子ども芸能教室

盆踊りの練習



新野の雪祭り



横笛づくり



神様の舞い

**新**野小学校は、愛知県の境にある小さな学校です。私たちの地域には、国の重要無形民俗文化財に指定されている自慢の郷土芸能が2つもあります。地域の皆さんは、この伝統をずっと伝えてほしいと、「子ども芸能教室」を開いて私たちに踊りや笛を教えてください。

「新野の盆踊り」は、お盆の3日間、夜明けまで一晩中踊り続けます。踊りが7種類あり、夏休み前には、小・中学生全員

が地域の方と一緒に練習をします。「盆うた」に合わせて自然と体が動くようになります。早くみんなで踊りたいという気持ちになります。

「新野の雪祭り」は、何百年も続いている冬のお祭りで、私たちにも大切な役割があります。

6年生は毎年、地域の名人に横笛づくりを教えてください。竹を削るところか

らすべて手作りし、雪祭りで演奏します。雪祭りの曲には楽譜がありません。地域の方の笛の構えを見て、音色を聞いて、真似て覚えます。曲が吹けるようになると、地域から一人前と認められます。

教えていただいたことを2つの祭りで力いっぱい披露し、ふるさとの伝統を受け継いでいきたいです。

事例紹介 ● 県内各校の活動より

## 地域クリーン作戦 地域の方々に感謝の気持ちを込めて

### 松本市立 筑摩小学校

やまびこだより No.142 (2016年度)より



ここにもタバコの吸い殻が落ちています。

全校で一斉に地域清掃



花でいっぱいになあれ!

町の花を増やす活動



毎年楽しみにしています。



花苗を持って行った方からのお礼の手紙

**筑**摩小学校は、多くの地域の皆さんに支えられています。松本一本ネギや英会話などを教えてください、貴重な学びの場となっています。ふだんお世話になっている方々に感謝の気持ちを込めて自分たちができると考え、全校で一斉に地域清掃をおこなっています。

2年生は学校周辺のゴミ拾いをしました。ほとんどゴミがなく不思議に思っていると、Aさんが、「毎朝、近所の人がお掃

除をしているよ。」と教えてくださいました。地域の人たちが学校を大事にしている気持ちが伝わりました。

4年生はたくさんの車が走る道の歩道を清掃しました。溝や草木の陰にはお菓子の袋やペットボトルやタバコの吸い殻などがありました。清掃が終わり、たくさんのゴミが集まると、「まちを



地域の方と特産の松本一本ネギ作り

きれいにできてよかったな」とうれしくなりました。

栽培委員会では、種から花苗を作り、児童センターの花壇に植えたり、公民館や子どもプラザなどで利用者の方々に花苗をプレゼントしたりしています。町が花でいっぱいになる活動をこれからも続けていきたいです。



## 「つまらない」なんて言わせない 「デイサービスセンターそほく」の皆さんとの交流

木祖村立 木祖中学校

やまびこだより No.141 (2016年度)より



次はここに  
通します。

ああ、  
こうかい。



子どもの頃の  
思い出は  
何ですか？

この企画、  
楽しんで  
もらえるかな？

できた!!

筆談でコミュニケーション

短学活で企画力アップ



売れるような  
配色に  
しなくっちゃ。

**私** たちのクラスでは、1年生の時から、「デイサービスセンターそほく」の皆さんと交流を続けてきました。

「相手意識」と「コミュニケーション」をキーワードに、グループごとにゲームを企画し、どうすれば利用者の方に楽しんでいたか考え続けた交流は、2年間で13回になります。

この活動を始めた頃は、必ずしも参加

に積極的ではありませんでした。でも、「みんなは楽しそうだったけれど、耳が聞こえないからつまらなかった」という利用者の方の言葉をきっかけに、自分の姿を振り返って、相手のことを真剣に考えようという意識が生まれていきました。

2年生の時には、利用者さんと一緒に

製品作りをし、販売して、その収益でお楽しみ会をしようという企画を立てました。製品は、手先の不自由な方にもできそうな内容であること、コミュニケーションをとりながら作業できそうなことを考え、文化祭などで販売しました。

交流を重ねるうちに、利用者さんと自然なかかわりができるようになり、自信をつけることができました。



## 心がつながる交流活動 施設の方々の笑顔が私たちの笑顔に

小諸市立 小諸東中学校

やまびこだより No.141 (2016年度)より



笑顔いっぱい  
あふれています。

「やまびこ園」の運動会



アルミ缶集め

全生徒会員に  
協力して  
もらっています。

役立てて  
もらえるとう  
れしいです。

寄贈式

**私** たちの学校では、近隣にある障がい者支援施設「やまびこ園」と毎年交流しています。

交流の内容は2年毎に行われる運動会と文化祭のお手伝いです。会場準備や商品の販売をしたり、飲食物を作って販売したりします。また、施設の方々と一緒に競技をしたり、車いすの補助をしたりします。

「やまびこ園」への物品を贈るために、

全校生徒でアルミ缶を集めています。回収したアルミ缶はお金にかえ、必要な物を贈るほか、小諸市内の他の福祉施設へも物品を贈っています。

昨年は全校生徒の前で寄贈式を行い、その際に全校合唱も披露しました。寄贈式終了後、来校して下さった施設の方々から笑顔と感謝の言葉をもらい、私たちも

うれしくなりました。「やまびこ園」との交流でも、園の方々が笑顔でいてくれると私たちも笑顔になります。

私たちはこの交流を通して、「他の人とどう接したらよいか」、「どうすれば喜んでもらえるのか」、「自分に何ができるのか」などと考えて行動することの大切さを学んでいるのだと思います。

今後もこの交流を通して、大切なことを学んでいきたいと思っています。



## 伝えよう ふるさとへの感謝 地域の役に立つために……明科キレイにし隊

安曇野市立 明科中学校

やまびこだより No.143 (2016年度)より



駅の清掃活動

きれいになって  
気持ちがいいな。

明科キレイにし隊



植栽活動

きれいな花が  
咲くといいね。

どれが  
いいかな？

明科福祉まつりに  
ボランティア参加



種から育てた花の苗を地域の力へ

花が咲くのが  
楽しみだね。



特別養護老人ホーム孝明館訪問

地域とのつながりを  
大切にしている生徒会活動

**明**科中学校には、10年前から続いている「明科キレイにし隊」という活動があります。故郷である明科のためにできることをやろうと生徒会で企画し始めた活動です。

今年も「地域に暮らす一員として、しっかり活動しよう」と5月と11月に生徒会の時間に実施しました。委員会ごとに地域の駅や神社などの清掃活動をした

り、地域の方と一緒に植栽活動をしたりしました。地域の方と作業することは教えていただくことも多く、とても楽しい活動です。

今年度は、「地域のあちこちでお花が咲くのが楽しみです」というお手紙をいただいたり、明科ライオンズクラブ様より長年の活動に対して感謝状をいただきました。自分たちの地域のために活動す

ることは特別なことではありませんが、活動を認めていただいたことはとても嬉しい出来事でした。

これから地域の役に立つような活動を続けながら、自分の故郷を大切にする気持ちを忘れずに過ごしていきたいです。



## ようこそ松代 また来て松代 受け継がれる地域の心

長野市立 松代中学校

やまびこだより No.143 (2016年度)より



松代のキャラクター「六モンキー」と

中に入ってみる？



観光案内所で

いらっしゃ  
いませ！



弓矢体験のお手伝い

ここを  
持ちます。



パンフレット配り

松代のことをもっと知って  
くれたらいいな。



秋の遊学文化祭2016に参加

**私**たちの学校では、松代の町おこし団体と一緒に、町の観光行事をお手伝いするボランティアを行っています。

土、日や夏休みを利用して、観光案内所で観光客の方々にパンフレットを配ったり、町を案内したり、イベント会場の設営や受付をしたりと、地域の方と協力して活

動に取り組んできました。また、総合的な学習の時間では、「松代学」と称して、町のあり方を考えてきました。文武学校での弓道や生け花などの体験、町歩きや歴史学習を通して、町の新たな一面を発見できました。

ボランティアや松代学を通して、地域の歴史や人々の想いを知ることができました。今ある「松代」を大切に、これからも町の一員として松代の魅力を発信していけたらと思います。

事例紹介 ● 県内各校の活動より

# ＊ ぼうさい GO! いのちを守る

地域の人と防災を学び、体験しました!



やまびこだより No.140 (2016年度)より

## いま災害が起きたら…

災害は、いつ、どこで起きるかわかりません。私たちにできることを考えてみましょう。

自分の命は自分で守る!

### まずは、自分の身を守ろう!

いちばん大事なことです

地震のときは、**3つの危険**に気をつけよう!

- ① 落ちる物
- ② 倒れる物
- ③ 移動する物

危険なものから離れ、できるだけ広い場所で姿勢を低くして頭を守る

家の中では

タンス、本棚、食器棚、テレビ、花瓶などに注意!

屋外では

ブロック塀、古い建物看板、割れた窓ガラスに注意!



### もしもの時に備えよう!

知識や備えがあれば、自分とみんなの命を守ることができます。

チェックしておこう!

- ① 危ない物は?
- ② 危ない場所は?
- ③ 安全な場所は?

想像してみる!

どんな時に、どんな場所でどんなことが起こるのか? そのときどうすればいい? どんな備えが必要かな?

いざというとき、どうすればいいのか、避難訓練は、「判断」の訓練!

何度も体験することで身につくよ!

### みんなと守る!

#### 地域の人と防災訓練に参加しよう!

- 地域の防災訓練に参加しよう
- まちの防災マップをつくろう
- 昔、地域で起きた災害について知ろう

ふだんからのつながりと備えが大切なんだね。

地域には、一人で避難することがたいへんな人がいます。ふだんから声をかけあい、困ったら助け合いましょう。



#### 家族で話し合おう!

- ① 非常持ち出し品を準備する
- ② 家族との連絡方法を決める
- ③ 避難先や避難ルートを確認する

家族と離れて避難した時に安心だよ!



自宅の電話や

家族の携帯電話の番号は必ず覚えておこう!

#### 全校参加による活動へ発展

安曇野市社会福祉協議会では、毎夏「防災」を題材に「サマーチャレンジボランティア」を開催しています。本年度のテーマは「知ろう!築こう!地域から」。市内の約40人の小中学生が体育館に集まり、2日間を通して楽しみながら防災について学びました。

プログラムは毎回工夫を施しています。その一つ防災運動会は子どもたちに好評です。バケツリレーや毛布担架競争など、友達と協力しながら防災についての知識を身につけます。お昼は缶詰と菓子パンを相談して分け合いま

す。これは炊き出しが始まるまでの非常食体験と、あるものをみんなで分け合う予行演習です。紙皿にはラップを巻いて、洗わなくても繰り返し使える技も教えてもらいました。

2日目は大人も加わり、防災という視点でまち歩き。危険な箇所は? 災害時に使える備品は?……そんな防災という視点で身近な地域を見ると、新たな発見がたくさんありました。「公民館には災害時に役立つものがたくさんあった」「塀が崩れかけている家があって危険だと思った」など。「子どもだからこそ気づく視点がある」と参加した地域の大人も感心します。「子どもと大人が一緒

に考えることが大切です」と担当の千國朋子さん。「災害時は子どもも大人も協力して支え合わないといけない。社協としては、災害時にもつながる、日々の繋がりの大切さを伝えていきたいですね」

顔の見える関係がいざというときに助け合える関係を生み出し、多くの命を救います。子どもたちも地域の避難訓練に参加したり、さまざまな年代の子供や大人と一緒に防災体験を積み重ねることで、地域との繋がりといのちの大切さを学んでいくのです。

# 防災体験を通して地域のことを知る！

H23 年度から毎年夏休みに開催

## 安曇野市社会福祉協議会 サマーチャレンジボランティア

小さい頃から災害に備える力と心を育む



バケツリレー



的当て消火ゲーム



毛布担架



キャタピラー  
避難競争

ふだん大人と災害について話すことはなかなかない子どもたちが大人と一緒に考え、地域を知る機会となっています。

### 楽しみながら学び、防災を身近なものに

講師：NPO 法人東京いのちのポータルサイト 監事  
中橋徹也さん



地域の防災マップづくりは、作成が最終目標ではありません。つくる過程やつくったあとに、子供からお年寄りまで地域に係わる皆さんで話し合うことを定期的に繰り返すことで、防災に関する情報と課題の共有が進むことが大切です。

子どもたちが防災に興味を持つきっかけとして、楽しみながら学ぶことが大切です。学校では特別に防災の授業を行うより、いろいろな教科の中で取り入れて、日々の学びの中にいれていただきたいですね。



防災目線でまち歩きを体験

## 楽しみながら自分事として考える防災体験プログラム

これまでに安曇野市社会福祉協議会が実施したもの

- 「まち歩き・地域の防災マップづくり」
- 「DIG（災害図上訓練）」
- 「架空のまちの防災対策・防災計画」

### 「防災運動会」

- 煙から逃げる（キャタピラ避難競争、トンネルくぐり）
- 荷物を運ぶ（一輪車で段ボール運び）
- 消火方法（バケツ入れリレー、的当て消火ゲーム）
- 水難救助方法（ロープワークで引き寄せゲーム）
- 救急搬送方法（毛布担架で人を運ぶ）

### 「避難が大変なひとを体験しよう」

視覚障がい、車いす、高齢者疑似体験をしながら避難競争

### 「防災ゲーム」

- 非常持ち出し品ビンゴゲーム
- 応急手当ゲーム ● 紙食器づくり

想像し考えることで自分のことだけでなく周りの人のことも考えるようになります。

### 「避難所体験」

- ダンボールで自分たちの避難所をつくろう
- 避難所ルールづくり ● 炊き出し・非常食体験

### 「防災アイデアコンテスト」

防災に関するアイデアグッズを考案し、コンテストに応募

### 「もしも空想会議」

例) 災害時に……  
ドラえものの道具の一つ使えるとしたら何を使う？  
今災害が起きたら3番目に誰を助ける？

### 「災害クイズ」

災害に関する知識、数値をクイズ形式で考える  
例) はかってはかってクイズ  
この体育館で何人収容できるか計算してください。

### 被害を最小限にするために地域のつながりを

安曇野市社会福祉協議会 山岸久美子さん

社会福祉協議会としては、防災体験は一つのきっかけです。防災について学ぶことを通して、自分が住んでいる地域のことを知ってもらったり、人との繋がりを作っていければよいと思っています。

地域の方と接して、日ごろから地域の方との繋がりをつくっていくことで、災害時の被害を最小限にすることができます。



先生もぜひ参加を！  
いざという時に  
役立ちますよ！

### 災害時、子どもの行動は 大人の声かけ次第

安曇野市社会福祉協議会 千國朋子さん

子どもたちは災害のとき、何もできないわけではありません。熊本地震でも子どもたちがそうじ、配食、傾聴などのボランティアをしていました。災害時には、子どもたちの多くが、「自分たちのできることをやる」と、自らが周囲の状況を見て行動に移す力を持っています。

サマーチャレンジボランティアでは、その子どもたちの持つ力を知る機会としていただければいいですね。



# 学校防災はいのちの教育実践

学校・家庭・地域がつながる防災教育

## 楽しく学ぶ防災 地震のときは“だんごむし”



ショート訓練の様子



開放参観日で  
保護者と一緒に  
防災授業

だんごむし 2  
発行先：長野県立大学の防災デザイン研究  
室等、関係機関や保護者、大木聖子  
発行日：2019年2月

ひびき たいせい ねんじ たいひつづく  
だんごむし広場、開催！4年生・大活躍！！

真島小の防災を地域の人に知ってもらおう「だんごむし広場」が2月10日スタートよ、なんと300人の応募で4年生が真島小の防災マップを完成しました！4年生のみんなは、頑張って1週間には、笑って防災マップを完成、良い所の投稿がありました。マップは防災室に貼られているので、地域のみんなも保護者のみんなも見てみましょう！

今月のセンパイ：1年平林愛菜さん・4年夕張さんの防災文

Q. きれいな体験学校の防災講座に参加してみようとしたか？  
A. 参加したいけれど、一緒に参加したい人が、一緒に、自分で体験することで、一週間参加に入っていたという感想がありました！

Q. 防災講座を行ったというのですが、実行してどうですか？  
A. 防災講座で学んだことを自分の力で、子ども達に自分の学校の本館に防災マップを貼らせてあげたい、それによって、心のゆとりを育める、防災意識を高めることができています！

Q. 防災講座を行った感想を教えてください。  
A. 防災講座で学んだことを自分の力で、子ども達に自分の学校の本館に防災マップを貼らせてあげたい、それによって、心のゆとりを育める、防災意識を高めることができています！

Q. これからは真島小をより安全にするためのメッセージをお願いします！  
A. 防災、自分、世の中のために、みんなが協力して、防災マップを完成させよう！一緒に、防災マップを完成させよう！一緒に、防災マップを完成させよう！一緒に、防災マップを完成させよう！

【みんなへ】  
みんなが避難所ですごすとしたら、どんなことが出来るかな？  
どんなことが出来るかな？  
今からできることは何だろうか？  
おうちの人といっしょに話し合ってみよう！

【保護者の方へ】  
お子様のコメントをお聞かせください。  
この1か月ほど、ご自身の子どもが、防災マップを完成させたことなどお聞かせ、教えてください。

チーム真島小オリジナル防災おたより「月刊だんごむし」（大木聖子研究室発行）を使って、朝の学活等を利用し、担任の先生が毎月10分間のミニ授業を行いました。

### 防災教育は「いのち」の教育実践

真島小学校では、「自分のいのちやからだを主体的に守れる子ども」を願い、平成27年度から「地震・大雨等自然災害に関する防災教育」に取り組んできました。

それまでの学校の避難訓練は年3回「火事」「地震」を想定し、校内放送後、校庭に避難し、消防署の方や校長先生の話聞いて終了、という計画の繰り返しでした。しかし災害は、従来の避難訓練時のように教室にいるときに起こるとは限りません。平成26年11月22日神城断層地震が起こり、距離の離れた長野市の街並みや学校の校舎にも影響をもたらしました。

このとき、日ごろから子どもたちのけがの状況や危機に対応する力に課題を感じていた養護教諭の降籙秀美先生が、東日本大震災の教訓を思い出し、「まさか」という考えでは子どものいのちも心身の健康は守れないのではないかと、学校全体で、防災を通したいのちの教育を行う必要性を感じました。

### 慶應大学の大木先生を迎えて

そこで降籙先生は、「防災学習の推進」と「避難訓練の見直し」の二つを柱にし、NHK・Eテレ「学ぼうBOSAI」等に出演されている慶應義塾大学准教授の大木聖子先生にオブザーバーを依頼。自然災害は学校だけではなく地域や家庭にまたがるため、その連携を図ることを目的に「学校保健委員会」を中心に据えて平成27年4月から防災教育の取り組みを始めました。

9月に学校保健委員会・PTAでの大木先生講演会を開催し、その後、大木ゼミの学生の皆さんが研究活動として定期的に学校の現場に入って防災授業のサポートしました。

職員研修は5回にわたって実施し、避難所設営訓練に保護者や地域の方が参加。避難訓練を見直し、様々な場面を想定した「ショート訓練」を繰り返し、防災授業では、大木ゼミが発行するおたより「月刊だんごむし」を用いて、担任の先生が毎月防災学習を行いました。こうして子どもたちは自分で危

険を判断して自分の身を守るという力を身につけていきました。

### 「だんごむし広場」の開催

平成29年2月、2年間にわたって取り組んだ真島小の防災教育の活動をもっと広く知らせる価値があると、「ながの災害・防災ネットワークみらい（略称ながのみらい）」の提案で、学校とPTA主催による「だんごむし広場」が開催されました。住自協、区長会、教育委員会、行政、社協等の協力もあり、300名以上が参加。大木先生の講演会とゼミ学生の研究報告、4年生による安全マップの発表などが行われました。

災害はいつでもどこにいても出遭う可能性があります。学校で防災教育をしても、家族や地域がしなければ子どもたちは守れません。真島小の取り組みのように学校と家庭と地域がつながって、同じ方向を見て真剣に防災の取り組みをしていくことが大事です。そのつながりが、子どもたちの、そして地域の未来へとつながります。



**今をプラスにする、今が楽しい防災教育を**  
 慶應義塾大学環境情報学部 准教授 大木聖子先生

毎月たったの10分のショート訓練ですが、子どもたちは、おうちに帰って「今月はこんなことをしたよ!」と楽しそうに話してくれていたようです。  
 学校では繰り返し繰り返し、訓練や防災指導を子どもたちと考え実践し、ご家庭ではご家庭での対策をしていただき、私たち大人の真剣に取り組む姿を子どもたちに見せることで、家族や地域の人々の尊いのが守れるのだと思います。



**真島小学校 防災教育 取り組みの内容**

**1. 学校保健委員会での講演会の開催**

大木准教授の講演会 自然災害についての学習をテーマ

**2. 防災授業の実施**

H27年度 連学年合同授業「地震からいのちを守る知恵」  
 H28年度 授業者：担任 アドバイザー：学生  
 1年、2年合同授業「親子で防災災害からいのちを守る知恵」  
 3年、4年(各教室)「家の中の危険をさがそう」  
 5年、6年(各教室)「きみはどうする?大雨の時の判断」

**3. 職員研修の実施**

H27年度  
 ① 慶應大学学生との職員懇談会  
 「防災教育の障壁になるもの」について  
 ② 職員研修「学校における防災教育」 講師 大木准教授  
 ③ ワークショップ「避難所設営訓練」 講師 大木准教授  
 保護者や地域の方と参加  
 H28年度  
 ① 職員研修「校内の防火器具について」 講師 元消防士  
 ② 職員研修「防災教育について」 講師 大木准教授

**4. 避難訓練の見直し**

- 考えられる危険を職員が共有し、避難経路や避難方法を見直す。
- ショート訓練による防災月間の設定

**5. 防災ミニ指導の実施**

防災日より「月刊だんごむし」によるミニ指導



**自分のいのちを守るために**

●3つのない場所を見つける

- ①落ちてこない
- ②倒れてこない
- ③移動してこない場所

●3つのポーズ

- ①だんごむしのポーズ(頭を手で覆ってしゃがみ込む)
- ②さるのポーズ(机の下に入って脚を持つ)
- ③あらいぐまのポーズ(火災時に口をハンカチなどで覆う)



だんごむしのポーズ

**ショート訓練の内容**

- ① 5～10分くらいの短い訓練とする。
- ② 「ここで地震が起きたらどうする?ちょっとやってみようか」などと告知して、緊急地震速報の音を使って行う。(音源はPC ネットワーク書庫トップ)
- ③ 地震による揺れから身を守る姿勢をとるところまでにする。(水害以外)
- ④ 必ず振り返りをする。やった気にさせない。なぜその場所を選んだのか。どうしてそのポーズにしたのか。



だんごむし広場で、4年生が自分たちの視点で作った安全マップを発表

**「防災」を通して、いのちを考える**

真島小学校 養護教諭 降旗秀美先生

防災教育を見直すきっかけの一つになったのは、怪我をして出血している友だちの周りで「ほくじゃないよ」と立っているだけの子が多いことに気づいたからです。友だちを助けずに、「ほくは関係ない」という子どもたちの姿に責任を感じました。

「防災」を通して、いのちについて考え、自分や人のいのちを大切にできる人になってほしいという願いもあって、この取り組みを始めました。



5年生が工夫して作った防災ポーチ(「学校保健委員会だより 防災月刊号」より)



# ★ 防災 私たちができること

中高生防災フォーラム

やまびこだより No.141 (2016年度)より

## 3・11は他人事じゃない! 子どものチカラは大切

### 第2回 防災フォーラム



第2回フォーラムの様子

第2回のフォーラムには、約60名の小中高生が参加し、それぞれのテーマについて意見を出し合い、考えました。

震災後、中学生の自分には何ができるのか考えていました。大人の指示に従うだけでなく、自分の意思で行動したいと思って参加しました。



中学生の時に被災地を訪問し、フォーラム実行委員に。

内田優月さん  
(諏訪清陵高校1年)

#### 第2回実行委員会の高校生メンバー



自分たちにもできることがあるはず。やってみよう!

#### こんな思いで私たちは参加しました!

- 被災地に行ってみて、大きな衝撃を受けた。実際に見たことを語り部になって伝えたい。
- 諏訪にも活断層があり、他人事ではなくなってきている。
- 震災をどう乗り越えるか考えたときに、子どものチカラは大切になってくる。

諏訪地域の子どもたちが、東日本大震災で被災した宮城県東松島市などを訪問し、交流を続けている「虹のかけ橋プロジェクト」。被災地を訪れた小中高高校生が実行委員となって、2015年から「中高生防災フォーラム」を開いています。

#### 防災フォーラムで伝えたいこと

- 体験や教訓を、被災地・未災地同士で共有すること
- 私たちは「災間(災害と災害の間)を生きている」こと
- 一人ひとりの意識と繋がり大切さ、災害で学んだことを生かす

### 被災地の中高中生と出会う

2016年9月、諏訪市文化センターに約60名の小中高生が集まり、「第2回中高生防災フォーラム」が開催されました。諏訪市内の中高生が中心になって作るこのフォーラムでは、いざというときに「自分たちにできること」を中高生自身で考えています。

フォーラム開催のきっかけは、諏訪市と宮城県東松島市共催の「虹の架け橋プロジェクト」での被災地訪問です。「東日本大震災の現地を訪れて、大きな衝撃を受けた。被災地の中高生から体験談や想いを聞いて、苦しいことを乗り越えたからこそその考え方ができると感じた」と当時諏訪清陵高校1年生だった和田臨渡さんは話します。「自分にもできることがあるのでは……」との思いから、一緒に参加した先輩たちとフォーラムを昨年初めて企画・開催しました。

震災時に避難所となった石巻西高校の齋藤幸男先生(当時教頭)のお話も、諏訪の中高生に強い印象を与えました。

「今回の震災は、まさかねという大人の判断が被害を大きくした。大人は過去の経験を参考にすが、大人も経験したことのない時代が来ている。今は、子どもが“それでいいの?”と言える時代。あなたたちが大人と一緒に考えていかないと……」。自分事として防災を考えることは、故郷の未来、自分たちの未来を考えるとだと齋藤先生は語ります。

#### 自分事として、未来を考える

2年目のテーマは、「子どものチカラ」。「避難所で子どもたちの笑顔が周りを明るくした、勇気づけたという話を聞き、子どもにもできることがあるのだと感じました」と話すのは、第2回実行委員長の河西莉穂さん(諏訪二葉高校2年)。「子どもが立ち上がれば大人も立ち上がる。子どものチカラにも影響力があることに気付いてほしいです。フォーラムでは自分たちにできることを考えるきっかけにしたいと思います」。

石巻からゲストとして参加した雁部

那由多さん(石巻高校2年)と津田穂乃果さん(同)は、「語り部」として、震災当時小学生だった自身の体験を伝え続けています。語り部の活動を行うようになったのは、「虹の架け橋プロジェクト」がきっかけでした。生徒会として諏訪市の中高生と交流する中、「伝えることで自分たちが救える命があるのでは」と思い、活動を始めた」といいます。

「あの日を語ることは未来を語ること。防災とは郷土愛です」と話すのは、自身も娘を津波で亡くした元中学校教諭の佐藤敏郎さん(講師として参加)。「3.11は私たちの足かせではなく、これからどう生きるかの指針になっています」。

生まれ育った故郷のために、私たちには何ができるのか。自分自身のチカラに気付き、そして行動に移していく。小さな一歩の積み重ねが未来の地域を作っている。参加した子どもたちにも、大きなチカラがありました。

2011  
H23年

# 東日本大震災

いきさつ

齋藤先生の意向を受けて諏訪市の子どもたちと宮城県東松島市の子どもたちとの相互交流が始まる

2012 H24年 諏訪市教育委員会主催

## 齋藤幸男先生の講演会を開催

諏訪市の被災者支援の中で、教員らの個人的なつながりから、宮城県石巻西高等学校の齋藤幸男先生(当時教頭)の講演会を開催。



東北大学教育・学生支援部特任教授  
前・石巻西高等学校長 齋藤幸男先生

震災時、石巻西高校は大震災後に避難場所となりました。非常時のときほど教育者としての人間性が現れるものです。当時の教職員は心一つにして運営に当たってくれました。災害時において生徒や地域住民を守り抜く底力は、『防災の心構え』を日々の減災教育や万全の準備と訓練を積み重ねることで養われます。

子どもたちは災害の中で強くなった。「PTG(ポストトラウマティックグロウイング)、心的外傷後の成長」というものがありますが、悲しみを乗り越える力は子どもの方があると思います。

### 被災地を訪ねた諏訪の子どもたちに齋藤幸男先生から提言

防災の問題は大人のいう事を聞いてればよいというわけではない。防災のことを考えることは自分たちの未来を考えること。大人に任せず、君たち自身で防災を考えてほしい!

## 「虹の架け橋プロジェクト」

諏訪の小・中・高校生が被災地を訪問

## 「BOSAI ミライ交流 in SUWA」

被災地の子どもたちを諏訪に招待



東松島市の被災跡地を訪問

現地を見て衝撃!

齋藤先生の提言を受けて……

自分たちにもできることがあるはず。やってみよう!

2015 H27年

## 第1回 防災フォーラムを開催

ワークショップで考えてみました!

- 学校以外で災害に遭ったらどうする?
- 自分の学校が避難所になったときに何が出来る?
- 自分のクラスに被災地からの転校生が来たらどうする?
- ふだん、学校でできる防災教育は何がある?
- 学校や家に防災カレンダーを置くとしたら何を書く?

テーマについて、一人ひとり自由に意見を出し合い、理解を深めるワールド・カフェで盛り上がりました。

第1回フォーラム実行委員長  
虹の架け橋プロジェクトリーダー  
和田臨渡くん(諏訪清陵高校3年)



被災地の中高生から体験談や想いを聞いて、苦しいことを乗り越えたからこそその考え方ができる、人って変わるんだと感じました。子どもが立ち上がれば大人も立ち上がる。子どものチカラにも影響力がある。そのことにも気づいてもらうことにフォーラムの意義があるんです。



齋藤先生の講演会も開催しました。

石巻西高校の生徒が齋藤先生を笑顔にしようと、全校生徒の笑顔写真を集めて似顔絵風にしたモザイクアートも飾られました。



塩害にあった土地で作った「わすれまい(米)」でお餅をつきました。

# 地域の子どもは地域が守る 集団下校避難訓練 地域の人と防災訓練を！

諏訪市立 四賀小学校

やまびこだより No.140 (2016年度)より



いざというとき、  
どうすればいいのか、  
避難訓練は、  
“判断”の訓練！



地区で用意した  
避難者カード

避難者(むなんしや)カード		所属(所属先)	
氏名	性別	年齢	学年
姓	名	西賀小	新 第 四 学 校
住所	〒	番	番
○戸	○奥	○番	○番
○番	○番	○番	○番
親の名前	電話番号	電話番号	電話番号
(印刷記入)			

避難者カード  
を書こう。

うちの  
電話番号も  
忘れずにね。

物のついでに少し気にかかる。それだけでも全然違います。」と小池さん。

日頃からの繋がりを大切にしている四賀地域では、「地域の子どもは地域で守る」を合言葉に地域ぐるみでの防災意識が広がっています。

子どもたちも  
地域に課題を  
提供しています。



小池玲子さん

四賀小学校では、2016年7月、集団下校時の避難訓練が行われました。当校では様々な想定で避難訓練を行っていますが、今回は「発災時、一番近い避難所に避難する」訓練。避難所に指定されている公民館では、地域の方による避難所の設置訓練も行われました。

学校と地域の防災に企画協力をしている四賀小学校学校評議員の小池玲子さんは、「想定外のことがたくさん起こった方

がよい。やってみると課題が見えてくる。見えてきた課題に対してどうしていくか考えていくことが大切です」と訓練の意義を強調します。

四賀地域では、住民による下校時の見守り活動も行われています。学校便りやひと月分の下校時刻も回覧板で回しているとのこと。「情報を流すのが危険だという人もいますが、皆で見守れば安全です。情報は隠さず出したほうが良い。買

事例紹介 ● 県内各校の活動より

# 自然体験から防災を学ぶ 避難所体験で食・木・育育キャンプ

山ノ内町内の小学生 山ノ内町社会福祉協議会  
夏休みボランティア体験教室

やまびこだより No.140 (2016年度)より



ドラム缶風呂  
は楽しいね

これなら  
重い人も  
運べるね。

キャンプ生活を通して、災害に備え、ふだんから何ができるかを考え、自然の大切さ、食べることの大切さを学びます。



たき火でバウムクーヘンづくり

山ノ内町社会福祉協議会では、2009年度から町内の小中学生を対象とした夏休みボランティア体験教室を開催しています。2016年度には、避難所に指定されている「つつみ住民活動センター」で実際にテントを張り、町内の小学生20人ほどが避難所体験をしました。おやつ作りやマイ箸づくり、ドラム缶風呂などを体験し、楽しみながら災害への備えを学びました。



テントでお泊まり

災害時も自分の  
身の丈に合った  
自分にできることを  
してほしいですね。



山ノ内町社会福祉協議会  
鈴木太郎さん

子どもが元気だと、大人も元気になれるのです。

指導：NPO 法人よませ自然学校 代表 畔上正雄 さん

身の回りの自然素材を使って知恵を絞れば、災害時にもいろいろと役立ちます。いざというときのノウハウを「遊び」とおとして楽しみながら身につけられればいいですね。

災害に遭っても、子どもが自分で身を守り、一人でしっかり生活できれば大人も安心です。「お父さんお母さんは災害対応で忙しい。だから君たちも自分でできることをみつけて頑張るんだよ」と。

こうした活動を通して生きる力と考える力を子どもたちに伝えていきたいですね。



★ 私たちにできることを考えよう！  
震災学習で東北の被災地を訪問

塩尻市立 榎川中学校

やまびこだより No.140 (2016年度)より

ゴミ拾いボランティア



ゴミ袋がいっぱいになりました。

ポイ捨てや不法投棄がなくなればいいな。



仮設住宅の方との交流会



榎川中学校では、「私たちにできることを考えよう ～被災地から学ぶ～」をテーマにして、平成26年から全校で東北訪問を行ってきました。今年、1・2年生で宮城県名取市を訪れ、閉上地区でのゴミ拾いボランティア活動や愛島東部応急仮設住宅の方との交流をしました。

ゴミ拾いをしていると、お皿の破片など様々なものがまだ残っていて津波の高さと

被害の大きさが今でも実感できました。また、ポイ捨てをしたようなゴミがたくさん落ちていました。ポイ捨てや不法投棄がなくなればいいなと思いました。

仮設住宅の方との交流会では、五平餅と東北の伝統料理の芋煮を仮設住宅の方となどと一緒に作ってお話をお聞きました。仮設住宅に住み始めて5年が経っていて、ご不便な生活をされているにも関わら



仮設住宅の方と

ず、明るく元気に私たちに接してくださいました。私たちの交流で少しでも元気をもたらしていただけようと思います。

事例紹介 ● 県内各校の活動より

★ 非常食を食べる体験をしました！ 小谷村立 小谷小学校・小谷中学校  
いつも防災意識を持とう！

やまびこだより No.143 (2016年度)より



思ったよりおいしいね。

このカレーは温めなくても食べられるのです。



いつも備えておくことが大事だね。

小谷村の小谷小学校と小谷中学校では、平成26年の震度6弱の神城断層地震を忘れないように、11月22日を「防災を考える日」としています。平成27年から避難訓練・非常食を食べる体験・引渡訓練を行い、防災意識を高めています。

小谷村は、地震だけでなく、水害、地滑り、大雪などへの備えも必要です。いざという時にあわてず行動できるよう防災教育に力を入れています。



長野県神城断層地震

平成26年11月22日夜に白馬村と小谷村を縦断する神城断層を震源として発生した地震。

白馬村をはじめ、小谷村でも全半壊する住宅が多数あり、土砂崩れなども起きるなど大きな被害がありました。

## 池工版デュアルシステム 池田町社会福祉協議会で学んだこと

長野県 池田工業高等学校



施設の利用者  
さんと交流



細かいところまで  
丁寧に貼っていて  
すごい!!

おばあちゃんたちは、  
物知りだね〜♪  
知らない話が聞けて、  
おもしろい!

聞いたこと  
のない単語が  
多いね。



事前学習

「池工版デュアルシステム」は、地元の製造業、建設業、農協などの地元企業で現場を体験し、職業人としての資質を磨く3年生のカリキュラムです。毎週金曜日の午後、1年にわたり、指導を受け、学校では得られない実践的技術や職業・社会観、異年齢者とのコミュニケーション力を身に着けます。

そのなかに池田町社会福祉協議会で研修を行うコースがあります。町の様々な施設に行き、実際に車椅子体験・高齢者疑似体験・認知症などについての学習や研修、利用者さんとのお話、レクリエーションを通しての交流などを行い、福祉・介護を1年間かけて研修させていただいています。

### 社協職員の感想

「初めて会うときは不安だった。でも実際に会ってみると、その不安は、自分の勝手なイメージが作り上げた先入観だということが分かった。人と接するというのは相手を知ろうとする気持ちが大切だということを学んだ」「全てをサポートしているのではなく、できないところをサポートしていた」といった感想があり、障害や病気でなく、「人」を知るためにはまず関わるのが大事だと気づいてもらえました。

### 生徒の感想

最初は、障がい者の方と話をするとときには「目を合わせてくれない」「話がスムーズに出来ない」のではないかという不安がありました。でも、実際に話をしてみると、目も普通に合わせてくれましたし、会話もスムーズにできました。一緒に遊ぶ時も、エスコートをしてくれ、とても優しい方たちで、自分が思っていた「障がい」のイメージが変わりました。

## 地域と共に育つ学校 ちょっと楽しくなる筑北村にしよう

学校法人 日本ウェルネス高等学校  
タイケン国際学園 信州筑北キャンパス



村民の方々からお米などの差し入れをいただきました



お助け隊として農作業をお手伝い



日本ウェルネス高等学校信州筑北キャンパスでは“お助け隊”というボランティア活動を行っています。

筑北村は過疎化が進み、若い世代が少ない地域です。校舎は廃校になった旧本城小学校を跡地利用しています。スポーツに特化している高校ということもあり、村の施設を利用し練習に励んでいます。練習に打ち込む姿を見た村の方から野菜やお米を寄付してもらうこともあります。

このように村や村民の方々から受けている支援への感謝の気持ちを込めて、主

に高齢者の方々のところへ行きボランティア活動を行っています。地域住民の方々の畑仕事(田植え、草むしり、脱穀、はぜかけ)などのお手伝いをしています。

地域の方々との交流を通して筑北村への愛着の醸成を図り、心の成長を目指します

### テーマは「ちょっと楽しくなる筑北村にしよう」

キャンパス長 村山 吉郎 先生

ボランティアといいながらも、地域の人に助けってもらうことが多いです。小さな活動でも積み重ねて続けていくことが大事。1年生のときは「やらされている」と感じる生徒がほとんどかもしれませんが、でも、3年間でなにかを得て、その後の人生のふとしたときに思い出したり気づいてもらえれば良いと思っています。



## 地域とのつながりを深める活動

D-project 部と JRC 部の活動



地域合同イベント「星を見る会」



上田わっしょいに参加



地域合同花植えの会

### D-project 部

**D**-project (Dream Station Park Project ~夢の駅前公園計画) は、上田西高校の最寄り駅であるしなの鉄道「西上田駅」を中心に、地域自治会との交流を行う部活です。

活動は、ほぼ月に1回、イベント企画し、自治会や学校に提案し、実行しています。現在部員は6名おり、企画ごとの検討会議では学年に関係なく意見を出し合い、活発な議論を繰り広げています。特に秋におこなう「緑のフェスティバル～西上田駅」は、D-projectの活動のメ

インであり、毎年、500名ほどの人が参加する、一大イベントです。夏休み前から企画検討をはじめ、当日は地域が一体となり盛り上がります。

地域と西高とのつながりがより強まるように、毎日の活動を続けています。



駅周辺の定期清掃

### JRC 部



JIM-NET チョコレート募金のパッケージ作業



フィリピン歯科医療活動



ふれあいお茶飲み会に参加

**J**RC 部は、ボランティア活動を通して福祉について学んでいます。主に「地域交流」、「募金活動」、児童センターや高齢者施設での「短期ボランティア活動」、海外支援活動(フィリピン歯科医療活動)への「ボランティア参加」を行っています。

中でも「地域交流」を大切に、毎年地元の一人暮らしの高齢者へクリスマスプレゼントを渡す活動を行ってきました。

そして、より地域に関われる機会を作りたいと考えていたところ、民生委員さんに誘われて下塩尻自治会の「ふれあいお茶飲み会」に参加させていただきました。今年が初めての参加なので部活の紹介や自己紹介から始めて、最初は緊張していましたが、みんなで一緒にゲームなどをやるうちに笑顔も増え、グループに分かれてお年寄りとお話をする頃にはとてもにぎやかな会になりました。

会終了後、生徒は「とても勉強になった」

と話しており、地域の方からは、「普段声を出して笑うことはあまりなかったが、楽しい時間を過ごすことができた」との感想が聞かれました。

三世代で同居していても会話がなかった現状もある中で、今回の「ふれあいお茶飲み会」は、世代間交流としても良い機会となりました。



# 地域とつながる第一歩!

まずはお近くの社会福祉協議会・ボランティアセンターへご相談ください。



市町村	名称	電話	市町村	名称	電話	市町村	名称	電話
長野市	長野市ボランティアセンター	026-227-3707	小海町	小海町社会福祉協議会	0267-92-4107	喬木村	喬木村社会福祉協議会	0265-33-4567
松本市	松本市ボランティアセンター	0263-25-7345	佐久穂町	佐久穂町ボランティアまちづくりセンター	0267-86-4273	豊丘村	豊丘村ボランティアセンター	0265-35-3327
上田市	上田ボランティア地域活動センター	0268-25-2629	川上村	川上村社会福祉協議会	0267-97-3522	大鹿村	大鹿村社会福祉協議会	0265-39-2865
上田市	丸子ボランティア地域活動センター	0268-43-2566	南牧村	南牧村ボランティアセンター	0267-96-2363	上松町	上松町社会福祉協議会	0264-52-3560
上田市	真田ボランティア地域活動センター	0268-72-2998	南相木村	南相木村社会福祉協議会	0267-78-1001	南木曾町	南木曾町ボランティアセンター	0573-75-5516
上田市	武石ボランティア地域活動センター	0268-85-2466	北相木村	北相木村社会福祉協議会	0267-77-2111	木曾町	木曾町社会福祉協議会	0264-26-1116
岡谷市	岡谷市ボランティアセンター	0266-24-2121	軽井沢町	軽井沢町社会福祉協議会ボランティアセンター	0267-45-8113	木祖村	木祖村ボランティアセンター	0264-36-3441
飯田市	飯田市ボランティアセンター	0265-53-3182	御代田町	御代田町ボランティアセンター	0267-32-1100	王滝村	王滝村社会福祉協議会	0264-48-2008
諏訪市	諏訪市ボランティア・市民活動センター	0266-54-7715	立科町	立科町町民活動センター	0267-56-1825	大桑村	大桑村ボランティアセンター	0264-55-3755
須坂市	須坂市福祉ボランティアセンター	026-248-5606	長和町	長和町社会福祉協議会	0268-88-3069	麻績村	麻績村社会福祉協議会	0263-67-3099
小諸市	小諸市市民活動・ボランティアサポートセンター	0267-26-0315	青木村	青木村社会福祉協議会	0268-49-2129	生坂村	生坂村福祉ボランティアセンター	0263-69-1122
伊那市	伊那市ボランティア・地域活動応援センター	0265-73-2541	下諏訪町	下諏訪町社協生活応援センター	0266-27-8886	山形村	山形村ボランティアセンター	0263-97-2102
駒ヶ根市	駒ヶ根市社会福祉協議会	0265-81-5900	富士見町	富士見町ボランティアセンター	0266-78-8986	朝日村	朝日村社会福祉協議会	0263-99-2340
中野市	中野市社会福祉協議会	0269-26-3111	原村	原村社会福祉協議会	0266-79-7228	筑北村	筑北村ボランティアセンター	0263-66-2506
大町市	大町市ボランティアセンター	0261-22-1501	辰野町	辰野町ボランティアセンター	0266-41-5558	池田町	いけだボランティアセンター	0261-62-9544
飯山市	飯山市民活動支援センター	0269-62-2840	箕輪町	みのわふれ愛センター(箕輪町ボランティアセンター)	0265-70-1061	松川村	松川村ボランティアセンター	0261-62-9000
茅野市	茅野市社会福祉協議会	0266-73-4431	飯島町	飯島町ボランティアセンター	0265-86-5511	白馬村	白馬村ボランティアセンター	0261-72-7230
塩尻市	塩尻市社会福祉協議会地域福祉推進センター	0263-52-2795	南箕輪村	南箕輪村ボランティアセンター	0265-76-5522	小谷村	小谷村ボランティアセンター	0261-82-2430
佐久市	佐久ボランティアセンター	0267-64-2426	中川村	中川村社会福祉協議会	0265-88-3552	坂城町	坂城町ボランティアセンター	0268-82-2551
佐久市	白田ボランティアセンター	0267-82-4332	宮田村	宮田村ボランティアセンター	0265-85-5010	小布施町	小布施町ボランティアセンター	026-242-6665
佐久市	浅科ボランティアセンター	0267-58-0383	松川町	松川町地域ボランティアセンター	0265-36-3778	高山村	高山村社会福祉協議会	026-242-1220
佐久市	望月ボランティアセンター	0267-51-1520	高森町	高森町ボランティアセンター	0265-34-3001	信濃町	信濃町ボランティア・まちづくりセンター	026-255-5926
千曲市	千曲市ボランティア・市民活動交流センター	026-276-2687	阿南町	阿南町ボランティアセンター	0260-22-3151	飯綱町	飯綱町ボランティアセンター	026-253-1001
東御市	東御市社会福祉協議会ボランティアセンター	0268-62-4455	阿智村	阿智村社会福祉協議会ボランティアセンター	0265-45-1234	小川村	小川村社会福祉協議会	026-269-2255
安曇野市	安曇野市ボランティアセンター 本所	0263-72-1871	平谷村	平谷村社会福祉協議会	0265-48-2220	山ノ内町	つつみ住民活動センター	0269-33-2810
安曇野市	安曇野市ボランティアセンター 明科支所	0263-62-2429	根羽村	根羽村社会福祉協議会	0265-49-2288	木島平村	木島平村ボランティアセンター	0269-82-4888
安曇野市	安曇野市ボランティアセンター 堀金支所	0263-73-5288	下條村	下條村社会福祉協議会	0260-27-1231	野沢温泉村	野沢温泉村社会福祉協議会	0269-85-4347
安曇野市	安曇野市ボランティアセンター 穂高支所	0263-82-2940	売木村	売木村社会福祉協議会	0260-28-2004	栄村	栄村ボランティアセンター	0269-87-3450
安曇野市	安曇野市ボランティアセンター 三郷支所	0263-77-8080	天龍村	天龍村社会福祉協議会	0260-32-2277	長野県	長野県社会福祉協議会地域福祉部ボランティア振興グループ	026-226-1882
安曇野市	安曇野市ボランティアセンター 豊科支所	0263-73-7143	泰阜村	泰阜村社会福祉協議会	0260-26-2162			

発行日：2017年3月31日

発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 地域福祉部ボランティア振興グループ

〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130

イラスト：田之脇篤史

E-mail vcenter@nsyakyo.or.jp URL http://www.nsyakyo.or.jp/